

津島市地域福祉関係団体アンケート報告書

令和7年3月

津島市

目 次

1 事業所アンケート調査結果..... 1

1. 幼稚園・保育所・認定こども園 1

- (1) 登園、降園の安全確保について、どう変化しましたか。..... 1
- (2) 降園後の居場所確保について、どう変化しましたか。..... 2
- (3) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。..... 3
- (4) こども・子育て支援の仕組みづくりについて、どう変化しましたか。..... 4
- (5) 障がい者への支援体制について、どう変化しましたか。..... 5
- (6) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。..... 6
- (7) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。..... 7

2. 小・中学校 8

- (1) 福祉教育の充実について、どう変化しましたか。..... 8
- (2) 登下校の安全確保について、どう変化しましたか。..... 9
- (3) 放課後の居場所確保について、どう変化しましたか。..... 10
- (4) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。..... 11
- (5) 学校教育施設の人材強化・学校施設の改善について、どう変化しましたか。..... 12
- (6) 障がい者・保護者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。..... 13
- (7) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。..... 14
- (8) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。..... 15
- (9) ヤングケアラーの現状と課題について教えてください。..... 15

3. 高齢者支援事業者 16

- (1) 情報提供と収集について、どう変化しましたか。..... 16
- (2) 移動手段の確保、経費の支援について、どう変化しましたか。..... 17
- (3) 地域における交流、支援体制の整備について、どう変化しましたか。..... 18
- (4) 高齢者支援制度・サービスの改善と充実について、どう変化しましたか。..... 19
- (5) 高齢者支援施設の拡充について、どう変化しましたか。..... 20
- (6) 障がい者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。..... 21
- (7) わかりやすい福祉情報の提供と相談・支援体制の充実について、どう変化しましたか。... 21

4. 民生・児童委員 22

- (1) 世代や居住歴をこえた顔の見える関係づくりについて、どう変化しましたか。..... 22
- (2) 高齢者の生活支援と生活の質の向上について、どう変化しましたか。..... 26
- (3) 地域ぐるみでこどもを見守り育てる体制づくりについて、どう変化しましたか。..... 29
- (4) 障がい者サポートと生活支援について、どう変化しましたか。..... 33
- (5) 防災の取り組みについて、どう変化しましたか。..... 35
- (6) 空き家、ゴミ対策について、どう変化しましたか。..... 38
- (7) 民生委員・児童委員の権限と活動について、どう変化しましたか。..... 41

5. 障がい福祉事業者 45

- (1) 新たなサービスを行う上での問題点や課題について、どう変化しましたか。..... 45
- (2) 津島市において不足しているサービスについて、どう変化しましたか。..... 46
- (3) 地域移行、一般就労移行について、どう変化しましたか。..... 47
- (4) 他の団体との連携について、どう変化しましたか。..... 48
- (5) 障がい者を取り巻く地域社会のあり方について、どう変化しましたか。..... 49
- (6) 津島市の福祉施策に関する要望について、どう変化しましたか。..... 50
- (7) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。..... 51

2 共通アンケート調査結果 52

- (1) 津島市における地域福祉の問題点や困りごと、今後行政が力を入れて取り組むべき施策・事業について 52
- (2) これからの津島市の地域福祉の推進にむけて 72

■事業所アンケート調査結果について

※前回の計画策定時に実施した調査で挙げられた地域福祉の課題が、5年間でどのように変化したのかを、「①良くなった、②変わらない、③悪くなった、④わからない」の4段階で評価していただいたものです。

※いただいたご意見は原則として原文のまま掲載しています。

※評価が0件だった項目については掲載を省略しています。

※評価に記載がなくご意見のみの場合は掲載を省略しています。

1 事業所アンケート調査結果

1. 幼稚園・保育所・認定こども園

(1) 登園、降園の安全確保について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・道路標示、横断歩道、用水路フェンス等の対策をしてほしい
- ・側溝のふたが欠けていて危ない等、園児、保護者が安全に通行できるようにしてほしい 等

	件数	その理由
①良くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・道路標示により通行者に意識づけができた。色あせてきたので再度塗っていただくと良いと思います。 ・いろいろと周辺の修繕をしていただいています。 ・（幼、保、小等の近辺）路面の標示（道路標示）が明確に書き足された。 ・スクールゾーン等が色分けされ、分かりやすくなった。 ・園前の道路舗装がされ、グリーンゾーン塗装、側溝（ふた付）も新しくなったため。
②変わらない	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの高校に車で送ってくる方が重なると何台も路駐されていることがあり、道路に「スクールゾーン」標識を作ってもらったが、現状もほぼ変わらず、保護者から通りにくい、曲がりにくい等の意見が多い。 ・用水路のフェンスを新しくしてほしい。道路にあるミラーをもう少し見やすいものにしてほしい。 ・キッズゾーンの標示ができて意識の変化はあったが、生活道路通園道路であるため、通行量は変わらない。 ・道路標示等、横断歩道（県道）が危ない。 ・園舎前の用水フェンスが老朽化しているがなかなか修繕されず、一度確認に来ていただくなど対策していただきたい。

(2) 降園後の居場所確保について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・公園等子どもたちが外で遊べる環境づくり 等

	件数	その理由
①良くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・天王川公園がリニューアルとなり、降園後に遊びに行く方も多くなったように思う。それにより人の数も多くなったことで、安全配慮にもつながっているように思う。 ・公園のトイレがきれいになった。小学生等、遊びにくる子が公園に関しては多い。園児、保護者も利用している。
②変わらない	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境が変わっていない。 ・公園というよりは避難場所。遊具がない（少ない）。 ・公園等、園の近くでは整備されているようなことは見受けられない。（気付いていないだけかもしれませんが） ・防災公園ができたが誰もいない。
④わからない	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み等の居場所が確保された。大きい公園の整備はされているが、小さい公園が少ないことと、整備があまりされていない。 ・平日の降園後はほぼ家庭で過ごしていると思う。 ・保護者の勤務時間が長い園児も多く、降園後の居場所確保は自宅に帰る他は不明である。 ・特に状況が変わった様子がみられないため。

(3) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・子育て中の母子が近所の人と気軽に交流できる場が少ない
- ・子育て支援センターの認知度を上げてほしい
- ・虐待の情報連携について、地域での見守りがまだまだ低い 等

	件数	その理由
①良くなった	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのこどもの見守りの意識が高まった。 ・子育て情報が増えた。 ・令和5年より子育て支援トータルプランや子育て支援事業からも良くなってきていると実感している。 ・保育施設、支援センター、保健センター（保健師）等、連携を十分にしている子育て中の母子を見守り、サポートできる体制をとっていること。 ・子育て支援センターを利用している保護者が増えた。虐待通報等の認知度が増した。 ・学校運営協議会ができ、地域の団体のつながりができ、イベント的に小学校区の交流が前より広がった。子育て支援センターや各園の子育てサークルに参加する人は一定程度いる。 ・津島市の子育て支援事業等の配布物をよく園からいただき、保護者に周知できることが多いので、保護者の皆さんがどこで何の催しがあるのか分かりやすかったのではないかと思います。
②変わらない	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・集まる場がない。
④わからない	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から話を聞くこともあるが、それぞれ異なるので、全体的には把握が難しい。 ・特に状況が変わった様子がみられないため。また、自分達が直接の利用者でないので、変化を感じにくい。

(4) こども・子育て支援の仕組みづくりについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ 特別支援児の早期発見・早期治療
- ・ 発達障がいと思われる子への発達診断の受診等を、保護者へ伝えることが難しい 等

	件数	その理由
①良くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政機関との連携が取れるようになった。 ・ 療育支援事業や巡回型教育指導等が行われるようになり、保護者との連携支援に良い結果をもたらしてきていると思われる。 ・ 気になるこどもへのアプローチも、様々な関係機関より行っている。保護者への支援も手厚く行い、安心して相談できるようにしている。 ・ 園での研修に小学校の先生も加わったことにより、より多くの方のネットワークが広がったため。こどもの見守り・支援体制の充実につながると思います。
②変わらない	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の方や保健師の方や相談員の方等、話し合いを持つ場では、とても親身になって一緒に方向性、対応の仕方等を考えていただけていることはとても助かっている。発達に疑問を持つ子の保護者への伝え方は現在も困難なことが多い。就学に向けては特に感じる。 ・ 保健センター等関係機関との情報交換はできているが、「保護者へ伝える」ということについては、園から伝えることの難しさはまだまだ課題があるように感じる。 ・ 特別支援児の早期発見については継続して取り組んでいるが、保護者へ伝えることは難しい。 ・ 特別支援連絡会、巡回相談等で相談する場は定着してきた。未満児の入園が増え、園内で発見し、保護者へ伝え、つなげていくケースが増えた。1歳半健診の経過観察児は、一旦母子で通う場所がシステムとしてできるとよい。 ・ 効果的な対策がない。 ・ 発達等気になる子が多くなっている現状。 ・ 3歳児健診以降健診がないので、5歳児健診等、就学前にもう一度健診等があると良いと思う。
④わからない	1件	※記入なし

(5) 障がい者への支援体制について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がい児の保育受入に関して、職員配置が充分でない（乳児等加配対象の見直し）
- ・0歳時からの入所が多くなり、1歳児半健診以前での保育園入園という流れになるが、現場では対応の必要性を感じるケースが多い 等

	件数	その理由
①良くなった	1件	・職員配置を充実させ、個別対応の時間が充分確保できた。人件費の更なる充実をお願いしたい。
②変わらない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・療育に通う中での入園の子は療育機関から情報が入るので、把握でき対応も考慮しやすいが、それ以外では健診での情報が主となると思います。保健師の方からは伝えられないので、入園後に疑問に思うことも多く、保護者対応も含め悩むこともある。 ・低年齢では分かりづらい部分も、1歳を過ぎると集団の中で配慮が必要な部分がある子が増えているように感じる。と同時に、保護者のフォローもかなり必要になってきているように感じる。 ・職員配置については見直しが必要である。（乳児に対しても）気になる子が多いので、職員の人数を増やし、必要な部分は適切な対応ができるようにしていけるとよい。 ・障がい児に対する職員体制は変わらない。 ・診断、療育につながらない子も、日々個別対応が必要で、その部分の職員配置が保障されていない。集団生活で明らかな困難さがあっても、健診や相談で経過見と言われると、保護者が「問題なし」と捉えてしまう傾向がある。表出されている問題について、もっと対応を考えてほしい。 ・手帳を持っていても診断がついていても、職員が不足していると受け入れることも難しい。 ・稲沢市のようなインクルーシブ保育について導入していただきたい。
③悪くなった	1件	・加配基準を緩和してもらわないと困る。外国人も加配が必要な場合あり。

(6) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・外国人籍の人が増加しており、伝達を行うには個別対応が必要
- ・外国籍の子に対しての食事や文化の違いに個別の対応が必要 等

	件数	その理由
②変わらない	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・園に子育て相談、入園相談に来園された時に、その国の言葉がわかる通訳のできる人を市で派遣していただくとありがたいです。 ・ますます増えており、多言語になっている。文化も生活環境も保護者の考え方も母国意識が強いので、こちらの伝えていることが（日本の文化が）理解できない様子が多く見られ、保育に支障が出ることもある。 ・外国籍のこどもに対する対応が増えている。そのために、職員人数を増やしてもらいたい。 ・外国籍の園児の受け入れは増えている。共生の難しさは変わらない。 ・伝達だけでなく、日常生活の言葉の壁が大きく、個別対応が必要。両親ともに外国籍の家族も増え、発達支援が必要な子と同等の支援を考えてほしい。 ・外国籍のこどもを受け入れるにあたり、園の説明をしてもなかなか理解が難しい状況がある。入園に際し、サポートをしていただける環境があると望ましい。
③悪くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりも外国籍の子が増えたので、保護者対応の中でも伝達に困難の方が増えた。初めて対応する国の方も増えた。 ・特に対策してもらえていない。 ・令和元年度回答のようなケースが増え、対応に苦慮している。
④わからない	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・当園に通園しているお子さんや保護者の方については安定してきているため。

(7) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・大災害になった場合、具体的に動けばいいのかわからない
- ・災害対応について、意見交換会や連携のきっかけづくり、取り組み例の紹介などしてほしい
- ・地域と協力した訓練ができていない 等

	件数	その理由
①良くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画の見直しや避難災害確保計画を作成する機会をいただき、当園としては以前より意識が高くなったと思われる。 ・災害に対する職員の意識は高まった。対応については具体的に打ち出すことで、職員一人一人の行動もスムーズに協力し合っている。避難訓練を月1回、不審者訓練を2ヶ月に1回行っている。 ・防災や不審者（犯罪）に対する計画の見直しを図った。安全計画の策定が義務付けられた。
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・大災害に備えて、備蓄できる食料品などを市より提供していただくと有難いです。 ・自治体主体の訓練の実施。災害対策に係る物に対する補助。 ・園として取り組んでいたことはあるが、その他は変わっていない。 ・今でも、地域と協力した訓練ができている。実際の災害対応の課題を引き続き、具体的に考えていく。 ・乳幼児施設や高齢者施設は特別対策してほしい。支援が無いと大惨事になる可能性あり。 ・園での避難確保計画は整っているが、市の連携訓練がないので実際どのように動くか不安がある。 ・令和元年度と同じだと思います。

2. 小・中学校

(1) 福祉教育の充実について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・福祉実践教室以外では、福祉施設と交流する機会がない

	件数	その理由
①良くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室や認知症サポーター授業の取り組みの充実。 ・ボランティアの活動に、保護者だけでなく地域のお年寄りの方もたくさん関わってくださるので。 ・毎年、1つの学年が総合学習として福祉教育に取り組んでいる。実践教室以外にも、講師を招いて話を聞く機会も設けている。 ・赤い羽根共同募金、被災地への自発的支援などの様子から充実がうかがえる。
②変わらない	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響のため。 ・福祉実践教室以外で特に大きな取り組みがない。 ・放課後デイサービス、サポート会議、福祉実践教室等社会福祉協議会の皆さんに変わらずお世話になっています。 ・福祉実践教室は学校へ来ていただく活動で変わっていない。福祉教育としてのお話や、施設見学や施設での活動（体験）が進むとよい。 ・職場体験学習以外では、福祉施設との交流する機会がないため。
④わからない	2件	※記入なし

(2) 登下校の安全確保について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・信号のない交差点などがあり、危険個所の改善してほしい
- ・登下校時の通学路を高速で通っていく車が多い 等

	件数	その理由
①良くなった	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の見守りの方が通学団に同行して登下校してくださるから。 ・津島市通学路安全推進会議で意見を聞いたり対応していただいたりしている。 ・グリーンロードはきれいになった。 ・危険の場所の対応をよく聞いてもらっている。 ・地域学習協働本部やPTAから登下校の見守り隊への協力を地域の方に依頼し、登録していただけたため。
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路が高校に向かう自転車の高校生とかぶるから。 ・学校の駐車場が離れているため、児童送迎時の路上駐車が多い。特に南門付近は道路が狭いため、危険である。 ・車が多くなり、安心して歩ける道が減っている。見守り隊の皆さんが毎日安全確保に心がけてくださっている。 ・自転車小屋を新設していただいたので、自転車通学の生徒を増やした。約1ヶ月であるが、現在のところ特にない。 ・登下校時の安全確保は学校と家庭両方で教育・指導することが大切。運転車側の交通法規の意識を高めさせることも必要。Ex. 横断歩道、一時停止など ・信号機を取り付けてほしいところに未だ設置されていないので。
④わからない	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・道沿いの通学路について、信号のない横断歩道を渡ることになった。以前の路肩を歩く場合と比べてどちらが安全か地域も学校も悩んでいるから。

(3) 放課後の居場所確保について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・部活動の時間が減っているため、安全安心な居場所づくりが必要
- ・ボールを使った遊びができる広い場所がない
- ・安全安心な遊び場が確保できない 等

	件数	その理由
①良くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後こども教室における諸行事の取り組みが充実している。 ・毎日になり助かっている。
②変わらない	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・蛭間小で決められた時間まで遊べるから。 ・地域での遊び場が少なく、駐車場等で遊んでいる児童も見られる。地域の中で安心安全な遊び場が確保できるとよい。 ・運動場を使用している。学童や放課後こども教室を利用されている。
③悪くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホなどの通信機器の普及が若年層まで進み、安全安心な遊び場ではないところにまで広がっているから。 ・ますます子どもたちが遊べる場所が減ったり、遊びが制限されたりするようになった。
④わからない	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりませんが、5年前のアンケートの内容は現在でも感じます。

(4) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・共働き家庭では、下校後子どもたちだけでいることが多い
- ・中学校の部活動と個人で参加するクラブチームの連携
- ・子ども会が解散等することで、地域との結びつきが弱くなっている 等

	件数	その理由
①良くなった	1件	・コミュニティが積極的に支援くださっている。
②変わらない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・通信機器を使って子どもたちだけで集まることができるので、地域の目が行き届かなくなっているため。 ・子ども会がなくなり、家庭と地域との結びつきが弱くなっていると感じている。同じ通学団でも保護者同士の面識がないことが多い。 ・学校と地域が連携して取り組んでいきたいと考えている。 ・部活動地域移行の具体的な方策が打ち出されないまま、練習時間だけが削られていると思う。 ・部活動の地域移行が進んでいない。
③悪くなった	1件	・子ども会の解散が増えている。
④わからない	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・良いところも困っているところもある。 ・中学校の部活動と個人で参加するクラブチームの連携という内容がわかりません。

(5) 学校教育施設の人材強化・学校施設の改善について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・特別な支援を要する児童生徒増加のため、市の補助員を配置しているが対応しきれない
- ・スクールカウンセラーの回数を増やしてほしい
- ・学校施設のバリアフリー化が進んでいない 等

	件数	その理由
①良くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の修繕で使いやすくなった。 ・修繕費が増額されたため。
②変わらない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕で追い付かないくらい老朽化も進んでいる。 ・施設面では急を要する修繕等に対応いただいている。 ・スクールカウンセラーの来校時間数が削減された。相談者も増えており、時間数を増やしてほしい。 ・スクールカウンセラーの訪問回数は大きくは変わっていない。 ・学校環境を整える校務員を増やしてほしい。 ・SCの数は増やしてほしい。 ・SCの人員不足が解消されていない。
③悪くなった	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・切実な問題と学校は捉えています。特別な支援を要する生徒が増加しているのに、支援員確保のための予算がない。学校施設が整えられない。現場の大変さをもっとわかってほしい。

(6) 障がい者・保護者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ 専門機関との相談・連携体制の充実
- ・ 障がい児への偏見があり、支援をなかなか受け入れられない家庭へ助言が難しい 等

	件数	その理由
①良くなった	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援・受け入れのハードルは低くなったと思う。しかし、支援を受け入れられない家庭も一定数はある。 ・ 市の特別支援教育相談員が増え、就学相談や教育相談への対応がしやすくなり、助かっている。 ・ 専門機関や放課後デイサービスとの連携が以前よりとれるようになってきている。 ・ 市の特別支援相談員やSSWが積極的にかかわってくださり、大変助かります。 ・ 専門機関との相談、連携の充実は今後さらに必要となると考える。 ・ 津島市はありがたいことが多い。 ・ SSWやこども家庭相談センターの指導のおかげで保護者や生徒への対応がよりよくなったから。
②変わらない	4件	※記入なし
④わからない	2件	※記入なし

(7) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・言葉の問題により保護者の世話が充分行き届いていない外国籍のこどもがいる
- ・語学相談員の来校回数を増やしてほしい 等

	件数	その理由
①良くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・FUJICAはとてもよい取り組み。 ・こども達同士はすぐに打ち解けられていると感じる。 ・語学相談員により週に1時間程度授業を受けることができている。語学相談員である先生が保護者のサポートを行っている。 ・市雇用の先生が毎週1回来て教えてくださり、大変助かります。
②変わらない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の違いもあり、事の重大さの認識が違うから。 ・外国籍の児童が増え、言葉の問題で保護者との意思疎通が十分にできない家庭がある。日本語指導教員の巡回を増やしてほしい。 ・考え方の違いから教育を受けさせられていない外国籍のこどもがいる。 ・支援を増やしてほしい。 ・語学相談員の来校回数が以前のまま。ベトナム語の相談員に来てほしいが、今はいない状態。 ・語学相談員の来校回数を増やしてほしい。

(8) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・市内の公共施設でバリアフリー（トイレ等）が進んでいない場合、避難所になった際困る人もいる
- ・学校の校舎に柵のない場所があるため防犯対策としては安心できない 等

	件数	その理由
①良くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・洋式トイレとなり、段差もなくなった。 ・学校施設の修繕で使いやすくなった。 ・災害時でもバリアフリー化がすすみ、トイレの使用は令和3年度に改修工事が完了し、問題なく使用できる状態にある。 ・防犯カメラの設置がなされた。 ・防犯カメラを設置していただき、大変ありがたいです。 ・カメラが設置されたことが良かった。（学校に入ってこられてしまう現状があるため）
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕で追いつかないくらい老朽化も進んでいる。 ・体育館が避難所となっているが、スロープが設置されていない。備蓄倉庫が校舎内にあり、休日に避難所が開設される場合の対応がよく分からない。 ・学校に防災BOXを作ってほしい。 ・屋外にトイレがない。校舎用トイレは改築され、きれいになっている。 ・学校の安全管理体制には不安だけである。5年前と変わらない柵の問題。外部からの侵入は容易。実際に突然職員室に来訪者が現れる。門扉の鍵管理も難しい（リモートでできれば）。災害時避難所として受け入れるだけの防災グッズが整っているのか。

(9) ヤングケアラーの現状と課題について教えてください。

件数	その理由
0件	※記入なし

3. 高齢者支援事業者

(1) 情報提供と収集について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・引っ越してきた人が孤立している
- ・本人が無関心な場合は情報が伝わっているかどうかわかりにくい 等

	件数	その理由
②変わらない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にICTでの収集は困難。 ・近所付き合いがなくなってきている。 ・情報提供と収集について何が変化したのかわからない。 ・サービスにつながっている人は情報に接することができるが、そうでない方はアクセスが難しい。 ・民生委員と包括の連携が情報共有のスタートになっている。つながるまい津島の利用で情報収集しているが、情報の重複や過去の情報を見直そうとすると探せない。整理が必要。 ・独居高齢者に対する支援は対象者へ情報が届きやすいしくみができているが、高齢者世帯や日中独居に対する支援や情報が少ないように感じる。 ・介護保険制度や減税、減免制度などの分かりやすい説明チラシがほしいと思います。
④わからない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・今年事業所を開業したためよく分かりません。 ・以前の担当者が不在のため不明。 ・利用者以外の地域の状況や家庭環境の把握はできていないため。

(2) 移動手段の確保、経費の支援について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・タクシー以外の交通手段がなく、買い物に困っている
- ・通院介助は介護保険外で自費になる部分が高額となり負担が大きい 等

	件数	その理由
①良くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・お出かけタクシーを使用して外出が増えました。予約が取りにくい状況でもあります。通院解除は変わりません。 ・タクシーを愛西市、弥富市まで広げないと通院時困っている。大縄町にはふれあいバスが来ないので買い物に行けない。 ・おでかけタクシーの開始（範囲が広げられるととっても良い） ・市のおでかけタクシーを利用されている方が増えた。課題としては、タクシーの予約がとりにくくなった。短い距離の利用だと運転手の対応がよくない。コミュニケーションに補助が必要な方への対応が不親切。 ・乗り合いタクシーが走行しているのを見かけるので、ふれあいバスが通っていない地域の方は便利になったのではないかと思います。
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・高額と安全が担保できない。 ・おでかけタクシーが津島市内のみの補助で使いにくい。 ・おでかけタクシーがあるが、もう少し範囲が広くなるとよい。また、タクシーがつかまりにくい。距離が近いと頼みにくい。 ・介護タクシーも高い。 ・おでかけタクシーを利用できるようになって良かったですが、通院介助は自費のため利用するのは負担が大きく困っています。 ・高齢者（特に要支援、もしくは非該当）の方への取り組みについて、民間法人としては事業化が難しい現状があります。行政とのすみ分けや、補助などで支援体制を整えてほしいと思います。
④わからない	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの補助がでるようになり、助かっている人はいるが、タクシーそのものが不足しており、依頼しても断られるため結局利用できない。

(3) 地域における交流、支援体制の整備について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・サロンへ自力で行けない人の支援があるとよい
- ・介護サービスを増やしたいと希望する人がいるが限度額等の理由で利用できない
- ・津島家事サポーターの利用には認知症があると難しい 等

	件数	その理由
②変わらない	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の担保が難しい。専門的な（資格ではなく）人材がいない。移動と外出での安全が十分ではない。 ・足がないとサロンに行けない人は継続してみえる。 ・お出かけタクシーを利用するにも娯楽では利用できない。負担額が大きい。 ・車がないといけない（生活に困る）地域もあるので、バス等がもう少し便利よく困っている人が手軽に使えるとよいと思う。 ・家事サポーターの利用について不明なことが多く、存在そのものを知らない人が多い。 ・インターネットが扱えない高齢者の買い物に、移動スーパーあると交流の機会にもなる。（宅配サービスもネット注文となっているため） ・サロンへ自力で行けない人の支援があるとよいと思います。要支援の方の生活援助が限られているので自費対応で行わなければならないことがあります。 ・要支援の認定が増えている。同じ介護度でも身体的状況に大きく差がある。 ・要支援者が受けられるサービスに制限があり（デイヘルパーが週2回まで等）介護予防につながっていない。 ・認知症の方への理解は進んでいると思います。ですが、実際の対応方法は分からないという方が多い印象です。専門家などによる実践的な取り組みを伝えていく時期と考えています。
③悪くなった	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・家事サポとヘルパーさんの使い分けが難しい（混同する）。支援2の人がデイサービス1回しか利用しないのに2回分の金額が発生してしまう。
④わからない	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にサロン・認知症カフェなどを案内して、参加を勧めているが、移動手段のみならず、参加意欲にも難あり。他者交流、独立を防ぐため、個別性のある支援が必要だと思う。 ・介護サービスの適正利用を行っていても、身体状況により限度額を超えてしまうケースが多い。医療系サービスを断念することにつな

	件数	その理由
		がっており、健康管理に不安を抱えている高齢者は増えていると思う。

(4) 高齢者支援制度・サービスの改善と充実について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がいサービスを受けていた人が65歳になり、介護保険サービスの障がいサービスを受けていた人が65歳になり、介護保険サービスの利用が優先になり、費用負担が増える
- ・介護保険以外のインフォーマルサービスが充実していない 等

	件数	その理由
①良くなった	1件	・物価高騰で生活が大変な方が増えた。以前よりは高齢者目線の施策が増えている。
②変わらない	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマル支援員・人材確保が難しい。（ボランティアのみではサービスが拡充できない） ・障がいから介護に変更するメリットがなく、負担額だけ増える。 ・障がいサービスの方は、以前のサービスより減少済み。 ・特に要支援だった場合、本当に困っている通院、買い物、ごみ捨てに対してサービスを受けることができない。 ・介護保険以外のインフォーマルサービスが限られている。通院・外出等ボランティアがなく自己負担になってしまう。 ・介護支援専門員、相談員（障がい福祉）の互いの制度理解を促進するために、多職種での事例検討会の開催が必要と考えます。
④わからない	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源が増えてきているのはよいことだが、必要とされている人に活かされているか不明。 ・障がい→介護サービスになった方は、費用・サービス内容の悪化を訴えられる。 ・インフォーマルサービスの認知度が低い。高齢者自身で選択・利用につながることはほぼないと思う。

(5) 高齢者支援施設の拡充について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・職員の人件費も上がっており、さらに人材確保が難しい
- ・高齢者のニーズも多様化してきており、特色のある施設を拡充してほしい 等

	件数	その理由
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保は大変難しい。 ・職員の確保が難しくなっていると思います。介護従事者の身体的負担がある。特色のある施設はありますが、まだまだ足らなく拡充してほしいと思います。 ・支援が必要な高齢者が増えているが、老健・特養の施設数が変わっていない（増えていない）。 ・経費の値上がりに対応できない現状があります。多様な経費補助を検討してほしいと思います。また、人材確保が困難なためハローワークなどとの協力体制を望みます。
③悪くなった	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・経費上昇に対しての報酬低下（十分な対価の給与が与えられない）で人員を十分にかけることができない。良い人材が集まらない。 ・人材確保（ケアマネを含めた訪問サービス希望者は少ない） ・介護度が要支援だった場合、受け入れてくれるサービス事業所が少ない。 ・施設が乱立されることになり、人材確保が難しくサービスの質の低下が懸念される。 ・施設も多くなり、さらに人材確保が難しい。 ・介護職を担う人材不足を解消できる手立てを講じる必要がある。公的な補助など人材確保につながる政策を願う。 ・施設スタッフの入れ替わりが激しく、人材確保が難しい状況は続いている。 ・スタッフ教育が不十分で、外傷・体調不良時などの連携がうまくできない。 ・ケアプランに沿ったサービス提供が適切に行われているのか、疑問に感じることが多い。
④わからない	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の高齢者向け住宅は増えてきている。入居者の満足度が不明。良い人材確保のため介護事業者の給与を一般企業よりUPへ。

(6) 障がい者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・高齢者支援のなかで、家族に障がいを持つ方がいる場合の障がい部門との連携の体制整備

	件数	その理由
①良くなった	1件	・地域包括支援センターや基幹相談支援センターなど
②変わらない	6件	・ケアマネに障がい部門と言われるが、制度の理解が難しく専門職担当の方が利用者には安心できる。 ・制度間における高齢と障がいのシームレスな以降は現状でも難しいと感じています。
④わからない	11件	・障がい者への支援を行っていないため。 ・障がい者向けの住宅（グループホーム）は増えてきていると感じます。市内で見かけるので。

(7) わかりやすい福祉情報の提供と相談・支援体制の充実について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・広報紙以外の情報発信手段の拡充（SNSやLINE等）

	件数	その理由
①良くなった	4件	・津島市LINE ・お年寄りには難しいが若者には活用できる。 ・市広報紙、社協広報紙が見やすくなった。見る方・見ない方で情報の差がある。民生委員、ボランティア、老人クラブ、介護・障がいの支援者も周知活動に関わる仕組みをつくってけるとよい。
②変わらない	7件	・ICT活用を十分にできていない。 ・高齢者がSNSを上手に活用できるとは思えない。 ・情報を必要としている人がどの程度いるのかを把握して、直接アプローチできるように体制を整備する。 ・包括支援センターの充実（高齢世帯・高齢独居者の情報共有と家庭訪問などを通して確実な現状把握を行う） ・現状は困りごとが発生しないと相談されないと思うので、地域活動にも幅広く参加して発信の機会を増やすと良い。 ・「つながるまい津島」は便利なツールですが、世帯内で介護支援専門員や相談員（障がい）が別の担当の場合には連携ができないことが課題だと感じています。
④わからない	6件	・あんしんネットつしまが主催する講演に参加しています。

4. 民生・児童委員

(1) 世代や居住歴をこえた顔の見える関係づくりについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・少子高齢化・共働き等のため、コミュニティイベントへの参加が低く、つながり不足
- ・個人情報保護のため地域住民の情報が把握できない 等

	件数	その理由
①良くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら、小学生の通学集合場所へ顔を出し、見える関係を作った。 ・各地域でイベントが盛んになった印象。いろいろな人を巻き込んで続けていくことで、人手も増えていくと思う。関わってくれる人も。 ・コロナ禍の時期を経て町内会行事が数々カットされたことで、人々のつながりが減少し限定的になった。しかし、普段交流の少ない高齢者の中で昼間一人になってしまうお宅を住民でそれとなく気配りをし、見守るようになった気がする。
②変わらない	44件	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の関係で、学校側と連携をすることが良いと思うが難しいのが現状。 ・共働きの家庭が増え、休みは自分達の行きたい所へ行くのでわざわざ地元の行事には参加しない。 ・若い世代をはじめ、地域の行事に関心がないため。 ・高齢者世帯は増加。 ・高齢者はなかなか外出をしない。身体が不自由な方が多い。 ・イベントの参加が少ない。 ・以前のように情報困難、また新しい住居も増してきたため。 ・イベントなど、決まった方が参加している。なかなか広まりにくい。小学校での「情報交換会」では個人の情報が知らされないの、「見守り」のやりようがない。 ・コミュニティイベントへの参加は多少多くなった。 ・具体的に変わったところが思いつかない。 ・新しく町内に引っ越してこられた方とのコミュニケーション不足。 ・転出転入等把握をできていないし、こどもさんは特に新生児の誕生等まったく分からない状態です。 ・それぞれの世代での交流はあっても、世代を超えたつながりの活動はないように思います。 ・地区でのコミュニティのイベントは増えていると思いますが、常に一般の人の参加は限られ、いつも同じメンバーでの行事になりがちです。（イベントスタッフの割合が高い状態が続いているような気

	件数	その理由
		<p>がします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、以前よりもイベント等への参加が減っているように思います。 ・イベント等の参加が少ない。 ・イベントへの認知度が低いと思われます。個人のスケジュールを優先する方が多い。 ・ゴミの運動の時でも、以前から参加される人はいつも一緒に、高齢者になると足が悪いとか町内でも知り合いが亡くなったりして、外へ出られなくなっていく。 ・情報を共有する場がない。 ・町内に新しい方々（新住宅）が多くみられて、把握できていません。 ・高齢者の「足」が確保できる人とできない人で差が大きくなっている。 ・団地、集合住宅その他において、近所付き合いはほとんど少なくなっている様子。隣のことはほとんど分からないとか。 ・地域住民の把握できにくい。 ・イベントに参加される人が固定されている。また、会場付近であれば参加しやすいだろうが、少し離れると関心も遠のくようです。 ・空き家がだんだん増えている。コロナ後も感染が怖くて、人との接触を減らしている人も多い。 ・民生委員には守秘義務があり、当然守るのがなぜか市からの情報発信がない（少ない）。 ・少子高齢化、夫婦共働き、核家族の増加など、状況は増えていても対策が伴っているのか疑問。今後も難しい課題だと考える。 ・地域のコミュニティイベントは参加される方たちにあまり変化がない。 ・周知する手段が限られているため。 ・コミュニティのイベントやサロンだけでは、あまり変わらないと思う。 ・少子高齢化は変わらず。南コミュニティイベントへの参加は相変わらず低い。秋祭りの山車のある町内会では、協力しやすい関係にはあると思う（以前から）。 ・目に見える変化を感じない。
③悪くなった	24件	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の把握が難しくなり、身動きが取りにくくなった感じ。 ・家族と同居しないケースが増加しているため。 ・高齢化の進行に伴い高齢者の単身者が増加。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるイベント等（例 子ども会の消滅）がなくなり、交流する機会が減少し、特に年代を超えた交流が少なくなった。 ・少子化により子ども会がなくなり、併せて秋祭りの子供獅子の行事や夏祭りがなくなり、住民の交流が激減した。 ・高齢化が進んでいる。隣近所との交流が希薄になっている。 ・子ども会への入会児童が減り、存続できなくなった。 ・コロナ等 ・4年くらいコロナで制限されていたので、悪くなったと思います。 ・コミュニティイベントに関わる人が同じ人ばかりで負担が増えている。コンプライアンス重視のため個人情報の扱いがとても厳しく、ほとんど活用することができない。 ・コロナ以降、町内でのイベントはすべて中止となり、こども達もとても淋しい思いをし、住民間の結びつきも弱くなってきていると感じます。 ・若い世代の都会への流出、並びに少子化による接点の希薄が原因と考える。 ・同年代の方のことは比較的わかりますが、その子・孫の世代になるとほとんどわかりませんし、聞くこともできません。 ・生活の多様化、価値観の変化により、イベントなどへ参加の声を掛けても、なかなか参加まではつながらない。 ・少子高齢化が以前より進み、またコロナの影響でイベントの参加率は低下したままだと思います。 ・歯止めが利かない状況。当地区だけの現象ではないだろう。こどもが少なく、子ども会も解散、秋祭りのお獅子もなくなった。社協の会費すら払う人が減少。利己的になっている。 ・コロナによってイベントなどが中止になったため。 ・コミュニティイベントへの参加は内容が毎年変わらず、参加する意欲が薄れている。 ・個人情報保護のため、地域住民の情報が把握できない。 ・住民が集まる機会が減って、人間関係が希薄になった。個人情報保護のためとも関係があると思う。 ・高齢者が多くなり、近隣住民の接触機会の減少。 ・少子高齢化、共働きが一層進み、コロナ禍の影響によりイベントが中止・減少となってしまっている。 ・コミュニティの参加が低い。 ・民生委員になって5年目であるが、その間に5人の方が亡くなっ

	件数	その理由
		た。人間とはあっけないものだと思う。関係について特に問題はない。介護施設に入ることが容易になってきている。こうしたことから社会の変化（少子高齢化、共働きで日中留守がち、個人情報関連の制限など）とともにますます関係づくりは難しくなったと思う。
④わからない	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・改善策がよく分からない。普段から近所付き合いのある人は分かるが、それが広がっているようには分からない。 ・令和3年12月からの民生児童委員ですので、令和元年頃の状況は分かりません。江南住宅の住民の方の接点がないため、多くの時間をつかって情報の把握につとめています。 ・民生委員になったばかりで分からない。 ・令和元年に民生委員になったため、以前との比較が分からない。 ・前回のアンケートに参加していないため分かりません。 ・就任1年目のため分からないが、問題点は変わらないと思う。最近の社会情勢から訪問しづらい。TELもなかなか通じない。 ・民生・児童委員2年目のため変化がよくわからない。 ・私の知る限り変わらないように思いますが、前回時の状況がわからないため。 ・令和元年度は民生・児童委員でなかった。 ・民生委員となって経験年数が短いので、令和元年と比べてという問いの答えが難しい。 ・前回のアンケートに回答していないので。 ・民生・児童委員が令和4年度からなので令和元年度の状況が分かりませんが、元年の問題点困り事は現在でも感じる。 ・民生委員2年目で、まだよくわからない。 ・プライバシーの保護が優先され、情報があまりなく、高齢者・障がい者等ほとんど外出されないの、顔の見える関係づくりの機会に乏しい。

(2) 高齢者の生活支援と生活の質の向上について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ひとり暮らしの登録が少ない
- ・高齢者に対する災害時の対応が地域で共有できていない
- ・サロンやコミュニティの場は増えたが、そこへ行くための手段がない 等

	件数	その理由
①良くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には変わらないが、ひとり暮らし独居高齢者で引きこもりの方がいたが、家族との連絡が取れるようになった。 ・担当する家庭をまわっていて、「包括センターに知らせるといいよ」という案件で連絡をとってみよう促すと、すぐ対応してくれて、大変喜んでもらえ、精神面での安心感が得られた方がみえたから。 ・サロン、コミュニティのイベントは大変多くなってきましたが、地域が南北と広く、行くための手段がない。 ・民生委員社協共同でのサークルも2回目が開けた。
②変わらない	50件	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の割合が増えているが、それを支援する人が少ないので質の向上につながらない。 ・行政からの周知、説明等が少ない。住民に共有できていない。 ・男性独居登録者はない。 ・災害時高齢者は動けなくなる。 ・コロナ禍の影響が大きかったと思われる。 ・町内にはまだ多くのひとり暮らしの方がいらっしゃるのですが、なかなか登録していただけない状況です。 ・いろいろ案内するも興味を持たないのか。 ・特に変化がないと思う。 ・ひとり暮らし登録をすることにあまり興味を持たれていないようです。 ・以前のように情報困難、また新しい住居も増してきたため。高齢者はデイサービスに行く人が増えてきた。 ・具体的に変わったところが思いつかない。 ・コミュニティの場へ行く手段がない。 ・住宅の高齢化が進み、行事の参加が少ない。 ・高齢者にラジオ体操やフレイル教室等色々と情報を伝えるも、参加する人は決まっていて、新規での方は出掛けてきません。声掛けは意識しています。 ・登録をされていないひとり暮らしの高齢者も、民生委員が把握することで安全に暮らしてもらえないのでしょうか。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・改善点を見付ける努力はしますが、なかなか効果が出るまでには至っていないかなと思います。 ・高齢者になってもひとり暮らし登録する方が少ないようなので、登録を促す活動をしたいと思います。 ・参加者が増えていない。今年は暑かったので、外に出る機会が少なかった。 ・食事の取り方とか、会話が少ないとか、話し相手になる対応の方が多くて、災害時の対応は自分で助かる方法を考えてほしいと話をするくらいです。 ・包括支援センターの力で介護サービスやサロンに参加する人が増えた。一方、車を手放す方が増え、交通手段に不便を感じる人が多い。コミュニティバスの増便を望む。 ・タクシーの割引があっても、タクシー会社の対応（運転手）が悪いため利用しづらい。病院から自宅への予約待ち時間が30分以上と長すぎて困るとのこととひとり暮らしの方から伺いました。 ・ひとり暮らしの登録数は少ないままです。 ・包括さん経由でゴミ出しなど、日常のちょっとしたフォローが以前よりアクセスしやすくなったが、サロンのなものへの参加はなかなか難しい。 ・生活支援については高齢者はあまり理解されていない。市、その他の組織が定期的に出向き、高齢者を集めて説明すべきだ。 ・ひとり暮らしの登録が少ないのは、元気な高齢者が増えているからかもしれない。個人情報意識も高く、名簿に名前を載せることに抵抗があるのかも。大きな災害になった場合、大いに不安。 ・高齢者に対する災害時の対応が地域で共有できていない。 ・コミュニティの会場に行きにくい。 ・高齢の方は人の迷惑になりたくないとの思いが強いので、登録されている人が増えない。 ・地域性の問題もある。（ひとり暮らしになっても兄弟姉妹が近所にいる等） ・災基本法改正により、個別避難計画は進行中であるがパートナー同士の（自治会、自主防災など）連携が全くない（進んでいない）。 ・ひとり暮らしの人の情報がない。 ・サロンやコミュニティの場は増えたが、そこへ行くための手段がない。 ・70歳以上の男の方のひとり暮らしが4名ほどいますが、登録がない

事業所アンケート調査結果【民生・児童委員】

	件数	その理由
		<p>です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス、タクシーサービスなど利用できるサービスや対策は増えているが、情報提供の場も少なく、独居の方へ知らせるツールなど考えた方がいいのかもしれない。認知症患者の増加にも対応が必要。 ・男性のひとり暮らし登録が少ないと聞いている。孤立してしまうと災害時の対応も難しくなるのでは。 ・周知する手段が限られているため。 ・人との関わりをしたくない方が多い。
③悪くなった	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰に高額医療費にて。 ・コミュニティバスの不便さや、民生委員等の細やかな支援ができていない。また、公的機関の人員不足による現状把握が不十分。 ・コミュニティバスがなくなった。 ・ひとり暮らし登録が少ない。物価高により生活の質が下がっている。サロン、コミュニティの参加が減っている。 ・コロナで減少し、現時点では回復しきれてないと思います。 ・施設での行事やイベントではなく、自然に生活する中での質の向上は見られない。 ・実感として悪くなったと思います。 ・登録者の方は良いとして、していない人を登録させる必要があると思う。 ・皆さんがかなり年配でデイサービスの利用などには積極的であるが、サロンやコミュニティの場の利用が少ないと思う。介護施設の改善によりよくなったとも言えるし、隣近所との関係は弱くなったとも言える。隣近所で声をかけあい、解決できていたことがだんだんできなくなってきた。
④わからない	19件	<ul style="list-style-type: none"> ・変化が分からない。 ・町内行事への参加者が少なくなった。 ・（「高齢者に対する災害時の対応が地域で共有できていない」に対して）地域防災の会は定期的に行われているが、高齢者に対して地域での具体的な対応は示されていないように思う。方向が分かるよう、回覧板などで伝えてほしい。 ・独居の方はある程度の年金がいかなないと登録されない傾向がある。家族からの見守りはあるようだが、他人に頼ることはあまり望まれていない傾向があるように思う。 ・免許返納をする人達も増え、そこへ行く手段もなく、イベントへの

	件数	その理由
		<p>参加もあきらめてしまうケースもよく聞かれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回のアンケートに回答していないので。 ・ 変わっていないように思われます。 ・ 民生委員2年目で、どう変化したかよくわからない。生活支援の制度があっても、その制度を利用せず、自身で何とかしようとする方が多い。 ・ 担当外のことで携わっていないので分かりません。 ・ ひとり暮らしの登録は増えている。元気で自分でなんでもできる人の登録が多くなってきた。 ・ 情報がないので分からない。 ・ ひとり暮らしの登録は、あまり増えてない。

(3) 地域ぐるみでこどもを見守り育てる体制づくりについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ 歩道の整備ができていない
- ・ 子ども会と町内会との接点が希薄、子ども会がなくなってこども達の様子が分からない
- ・ 学校からドロップアウトした青少年の居場所がない 等

	件数	その理由
①良くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居場所作りなどこどもの受け皿が広がったから。 ・ 新開町は今のところ子ども会あり。民生児童委員として挨拶運動をしております。 ・ 見守りサービスの導入により、こどもの安全性は向上したのではないかと思います。 ・ 見守りアプリによる活動でこども達が安心・安全に暮らせる町になると思います。 ・ こどもを見守る人々が増えていて良いと思う。 ・ 学校は頑張っている。民生はあまり関わっていない。学校が、個人情報保護から、具体的に情報が以前に比べると全く出てこない。
②変わらない	39件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会、子ども会から問題あるとは聞いていないから。 ・ 通学路が危険のまま、改善されていない。 ・ 子ども会がなくなって、こどもたちの様子が分からない。 ・ 外で遊び場所が少ないのか。 ・ 毎年秋まつりの時だけ、食事、ゲーム、ビンゴと町内会と子ども会と楽しめます。もっと一緒に楽しめる場があるといいと思います。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・車道が整備されてきて車の通行が多くなり、余計に歩行者は危険が増した。 ・変わっていないように見える。 ・通学時の見守り隊があるため小学生の様子は把握できるが、中学生の様子が分かりづらい。不登校のこどもがいる等。 ・こども達は年々少なくなり、子ども会もなく、私達との接点はありませんが、私の町内は朝の見守りを続けています。こども達の親が確認できると良いのですが。 ・こどもの数が減少し、子ども会の存続が困難になった所をよく聞きますが、こどもたちにとっても幼い頃の思い出がなくなり寂しいのではと思います。 ・こどもがいないので、通学も親が送っています（2人）。こどもの姿をほとんど見かけません。 ・コンビニ近くの歩道の整備は進んだので、安全度は上がった。他は変わらず。 ・こども達が公園を利用しなくなったため、様子が分からない。 ・小学校・中学校からの情報が乏しいため、現状が把握しづらい。 ・少しずつよい方向にしたいと思っている人はいると思うが、自分の生活にいっぱい行動できないのでは。 ・町内会より子ども会へ毎年助成金を10万円拠出して子ども会活動を助成しています。秋祭りの子供獅子開催（令和6年度45名程参加）、令和5年度餅つき大会を5年振りに開催、子ども会の手伝いもあり、こどもさんも大勢参加いたしました。 ・中学生の自転車での通学が特に危険だと思う。 ・子ども会は存在するが廃品回収等の活動がなくなり、循環型社会の重要性等の教育ができていない。 ・歩道の整備ができていない。 ・学校から帰宅後や居場所がなく、公園で遊んでいる子を見かけるが、高齢者も公園で集まってみえることが多く、お互い譲り合うなどできない時はトラブルがあるとも聞いたことがある。 ・歩道の整備とともに除草ができていないため、車道を通行している児童を見る。 ・町内から見守るべきこどもがほとんどいなくなったことが、そもそもの原因と思われる。 ・子ども会は、秋祭りの子供獅子の時のみの活動になったらしく、町内でもこどもに声をかけている人はみかけない。どこの家にこども

	件数	その理由
		<p>がいるかということも知らない人ばかりになりつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知する手段が限られているため。 ・人との関わりをしたくない方が多い。 ・自主的に朝の通学団見守りを続けているので、担当地区の小学生の様子はわかる。見守りを町内会（各町内会協力で）でやれるとよいのだが、協力を得られそうにない。 ・今年1月から担当地区内に1ヶ所、週3日のこども食堂がオープンした。夕方4時から7時までではあるが、「居場所」になればと期待している。 ・子ども会もなくなり、祭りなどこどもが参加する姿を見られなくなっている。PTAなどの活動もなくなっている。
③悪くなった	16件	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進み、共働き世帯が増えて子ども会の運営を担う保護者の負担が増し、担い手不足に陥っていることにコロナ禍で活動が制限されたことが原因では。 ・子ども会が解散した。解散理由はこども数の減少だけでなく、役員のなり手がいないのも理由の一つ。 ・子ども会がなくなったことにより、町内会との接点がなくなった。 ・こどもの数も減少して子ども会もない。 ・道路整備は少しずつだが良くなってきている。 ・子ども会は大人の都合で縮小傾向にあり、大人が生き生きと生きている姿が見えなくなっている。 ・不登校の子たちの居場所作りに関して学校は努力してくださっている。ただ学校、家庭以外のサードスペースの必要があると思う。 ・子ども会の消失。地域住民同士の関わりが希薄になっていることが原因と考える。 ・当町内では、町内会の中に子ども会が含まれますが、今やこどもが少なくなり、その時の子ども会役員はこどものいない方がなったりする。 ・登下校時の旗当番（ボランティア）をすることでしか、こども達の姿に接することがなくなった。 ・8丁目では長年続いていた子ども会の活動が今年度で解散することとなり、町内会とこども達との関わりがなくなってしまわないか心配（保護者の世話役のなり手がいないため）。 ・子ども会がなくなり、町内会自体の活動にも住民が消極的。 ・こどもの通学団を見てもあまりの少なさに将来が心配。不登校も増加。親の対応にも疑問を感じる。

事業所アンケート調査結果【民生・児童委員】

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との緊密化を図る意味もあり、民生委員として小学校の草刈を数回実施している。 ・子ども会がなくなる町内が多い。 ・昔の廃品回収があれば町の人との接点ができるが。 ・子ども会がなくなってこども達の様子が分からない。 ・子ども会がなくなり、町内でも接点がなくなってしまっている。
④わからない	23件	<ul style="list-style-type: none"> ・変化が分からない。 ・体制づくりの情報がない。 ・青少年の地域での居場所がない。 ・こどもに会う機会がなく、把握できていない。 ・「地域で」というのも大切だが、人自体が減っていたり高齢化している。こどもというより「子育て世代」をケアしたり助けていける場などがあれば、恐らく親側の方が余裕がないし、大人が健全であればこどももしわ寄せが少なくなる。 ・こどもの見守りについて、高齢者のボランティアや善意に依存する小学校に親であるPTAの積極的な参加を促すのが先決。 ・情報不足。 ・通学道の見守りはよいと思う。 ・コミュニティスタッフや交通安全・防犯などのスタッフは常に見守り続けてくださっていますが、こども達の人数の減少には追い付かず。 ・子ども会との接点がなかった。 ・元気に外で遊ぶこども達をあまり見なくなり、様子が分かりません。 ・私の町内でも県道の自転車が通るところも急に狭かったり、大きな穴が開いていたり。季節によりますが（特に春）、市役所～唐臼町に向かう道では、車が道路側に出ている、自動車と自転車がほとんどかするくらいで危険と感じる時があり、冬で暗い時間帯は怖い。 ・子ども会がなくなってからは、他家庭の事は干渉しないから、つながりはないに等しくなっている感じがします。 ・前回のアンケートに回答していないので。 ・変わっていない気がします。 ・あまりこども達と関わる時が少ないので。 ・いろいろな場所ができてはいるようだが、周知されていない。情報（場所もこどもも）が入らないし、私たちに何ができるのか分から

	件数	その理由
		<p>ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの見守り等はコミュニティが積極的に行ったらどうか。 ・ 子ども会がないために学童の困っていることが分からない。下校後、こども達は塾通いのため。

(4) 障がい者サポートと生活支援について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ 障がい者・児の情報あまり無く、また家族との関係性を作るのが難しい
- ・ 災害時の障がい登録を案内するものの、実際に障がい者・児を連れて避難できるのか不安 等

	件数	その理由
①良くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の権利が手厚くなった。障がい者と健常者は同じである、助け合うのが当然である教育が高まったから。 ・ 行政・民間ともに取り組んでいる。 ・ 津島は支援の場や環境は増えていると思うが、現状を知らない人も多いと思うので、障がい者支援のことも多くの人に周知する場や社会的につながれるように積極的にイベントに関われると良いと思った。
②変わらない	41件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報もなく、積極的に接触したらよいかどうか分からない。 ・ 障がい者の個人情報はない。 ・ その場になってみないとどう対応できるか不安であり、専門（教育）家の指導が必要。概要でも。 ・ よくなっていない（情報が無い、プライバシーと言われる。） ・ 部会等で研修していただいているものの、発揮できていない。 ・ 近所の方が皆、知っているような状態になれば助け合えると思いますが、難しいことですね。 ・ 情報がなく、あまり把握できていません。災害時避難所での生活を考えた時、今のままでは支援方法に考えが至らない。 ・ 民生委員として障がい者に関わることはほとんどなく、情報を持っていない。仮にあったとしても、市役所につなぐため関わりがないというのが現状。引きこもり、社会と関わりをもたない人もある意味、障がい者と言えるだろう。 ・ 大きな災害が来た時に障がい者の居場所が確保できるのかな。 ・ ご家族との会話したことがない。 ・ 他の自治体では、災害時のためにシークレットで障がい者の方の避

事業所アンケート調査結果【民生・児童委員】

	件数	その理由
		<p>難場所が決められている。障がい者をお持ちの家族だけでもその場所があることは安心につながると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者・児の情報があまりなく、また家族との関係性を作るのが難しい。 ・とにかく情報がない。 ・個人情報保護にも関係して、関わり方も難しい。 ・障がい者・児のデリケートな情報は家族内でとどまってしまうことが多い。 ・実際に民生委員として、障がいのある人や児に関わった経験がない。そのような人は担当地区には高齢者（ひとり暮らしではない）が1、2人みえるが、家族が面倒をみてみえる（時々声をかけることはある）。 ・情報があるかないかではなく、立ち入りすぎないこちらからの声かけが大事だと思う。福祉課経由でご自分から民生委員との関わりを求められた方に対しては、時々会話をするようにしている。
③悪くなった	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・生活でいっぱい、個人責任だと考えている人が多いのでは。高齢者が多く、体力的に無理だと思う。
④わからない	37件	<ul style="list-style-type: none"> ・関わっていますが、未だに家族との関わりの難しさを感じています。 ・情報がない。 ・障がい者サポートと生活支援での問題点や困りごと情報がうまく収集できない。 ・あまり情報がない。 ・具体的にどんな生活支援があるのか分からない。 ・民生委員をして障がい者に関わるのは勉強不足。（他の機関の支援をすでに受けておられる場合が多い） ・NPO法人で関わっているので変化はわかりません。 ・変わったところがわからない。 ・障がい児の方は名簿確認でしかできていません。また、ご家族の方との接点もなく、どのように対応したら良いか分かりません。 ・研修等（講演会も含めて）も増えてきて、情報を把握しようとの試みの最中か。具体的な支援につなげていけたらと思います。 ・障がい者家族との接点がなく、行動もしにくい。障がい者家族状況もあまり分かっていない。 ・自分でどこまで支援できるか、何ができるか分かりません。 ・前回のアンケートに回答していないので。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・もし災害になったとしても、ひとり暮らしの方の安否確認もあり、障がい者の方の安否確認まで不安です。 ・障がい者の情報がなく、外出もあまりされないため、わからない。また、その家庭と民生委員が関係をもつのは、ハードルが高い。 ・情報があまり入ってこないです。 ・情報が少ないまま。 ・南包括支援センター（専門職員）また説明会の開催などで積極的に出向などのことを望んでいる。 ・障がい者のいる家庭を把握しているが、どこまで家庭内に入っているのかわからない。 ・障がい者についての情報がない。 ・要支援者登録等の情報があるが、個人情報の関係で詳しく書かれていない。 ・民生が全く関わっていない。

(5) 防災の取り組みについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・避難場所、行動マニュアルを市民に周知不足である
- ・防災訓練に参加者が少ない
- ・小学校で防災組織はあるが、町内単位の組織ができていない 等

	件数	その理由
①良くなった	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・日本各地で災害が多く起こり、危機感が増したかだと思う。 ・防災訓練に参加する機会が多くなった。 ・毎年災害が多いため、一人一人が防災の取り組みに関心を持ち、防災訓練に参加する人も多くなったと思います。防災グッズもそろえる人が増えたと思います。 ・各地区の防災会など活発に行われていると思う。蛭間小学校区においては、消防団との連携が取られている。 ・各家庭や地域住民の意識は多少ずつ高くなってきてはいます。 ・学校単位での避難訓練は大事だから、学年ごとに全校での上下の道びきなどが教えられれば、町内もリーダーが変わるので大変ですが、コミュニティなど力を入れてもらえればと思います。防災訓練等 ・先日の南海トラフの件で皆、意識が高まった。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティア（団体）が災害に備えて協力し合わなければ、という気持ちがみられるようになった。 ・周知に努力している。
②変わらない	50件	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミネットのカバーの仕方が甘いせいか、カラスに食い散らかされている。道路上にゴミが散乱している。 ・町内で1年に1回の訓練は行っているが、参加人数は毎年同じくらい。 ・地域の防災訓練では高齢者の参加が多く、時間が過ぎればいいという考え方の人が多く、活気もなくマンネリした訓練である。 ・周知不足。体制ができていない。 ・笛を吹けど踊らずで問題提起しても他人事のような感じで行動が伴わない。 ・防災訓練の参加者が少ない。町内の組織ができていない。 ・相変わらず、参加者が少ない。 ・防災訓練の参加者が少ない。 ・高齢者の方は避難場所を昔のマップを覚えていて変えようとしないので、周知不足を感じます。また防災意識が低いと思います。 ・例えば地震の場合、想像ではなく体感してもらうのが意識を高める方法として良いのではないのでしょうか。小さい単位で地震体験車を派遣されたいかがでしょうか。 ・近年地震や大雨による大災害が多発しているので、個人個人の防災意識をさらに高めるために訓練にもっと力を入れてはどうかと思いました。 ・防災訓練炊き出しの手伝いに参加しましたが、（他は見えない）人数少ないなと感じました。身近に迫る危機感がないのが現実。 ・少しは良くなったような気がしますが、まだまだだと思えます。 ・小学校での防災訓練に自分の担当の町内の方がどれだけ関心を持って参加されているか、自分も参加して感じてきたいと思えます。 ・防災訓練に自主的に参加する人は少なく、当町内ではその年の防災担当者のみである。良かったこととして、本年6月、当町内老人会では南自主防災会によって災害時のトイレ対応の勉強会をしていただいた。ひとり暮らしの方も多く、「1つの安心を手に入れた」と喜んで話された方があった。 ・避難場所は周知されていると思うが、災害の程度によりその避難場所が適切かどうか判断が難しい。 ・避難場所としての「小学校」の認知はあるが、実際に収容キャパ超

	件数	その理由
		<p>えの現実との乖離は無検討かと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の私設消防団が消滅してからは、目立った活動は乏しいのでは。 ・近年大きな災害が各地で起こっているが、そうなった場合どうなるかは大きな不安を持つ。防災訓練も現実に役に立つかは大いに疑問。各自で防災の認識を持つことが大切。水や食料の備蓄等。 ・防災訓練に参加する人が少ない。内容が毎年変わらないのか。 ・互助ができていない。 ・自治会の防災組織はあるにはあるが、実際の災害では一切機能しない。 ・防災訓練の参加者がいない（令和6年度）。 ・一応、ひとり暮らしの方には周知するようにしている。 ・改めて防災についてしっかりと対策が必要。町内での対応や訓練も必要であるが、ご近所との関係が希薄な家庭もあり難しい。 ・防災訓練を行っても、ほとんど参加していない。参加を促す必要があるのでは。 ・私自身は町内代表をこの十数年以上やっているが、町内総会で班の中で隣近所を助け合うようお願いするだけで防災訓練のようなことはやっていない。「自助、公助、共助」について話とお願いはしてきている。組織づくりも防災係は作ってあるが、積極的な活動はない。 ・イベントのみ。 ・避難場所、経路など徹底されていないのか、知らない人が多い。高齢者家庭は特に。
③悪くなった	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災主催の訓練がなくなった。 ・訓練の参加者が少なくなった。 ・今年、自治会長となられた方が地域のことに関心がなく、校区防災訓練やコミとのつながりを持たないことがありました。関心のなさが問題。 ・町内として防災訓練そのものがない。緊急時の非常連絡網が作られていない。 ・協力性がない。
④わからない	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・知ってはいても、具体的ではない。 ・誰もがわかるような避難行動の仕方について徹底されていないし、自分の立ち位置もよく分かっていない。 ・他力本願ではなく、自分（家族）の身は自分で守ること。離れてい

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・ても、家族があれば真剣に考えさせるべき。 ・変化したところがわからない。 ・防災訓練も参加する方はいつも決まっていて、参加されない方達に出てきてもらいたいです。 ・前回のアンケートに回答していないので。

(6) 空き家、ゴミ対策について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・空き家住居が放置されている、また年々空き家が増えている
- ・空き地や県道市道へのごみの不法投棄が多い
- ・ペットの糞の放置 等

	件数	その理由
①良くなった	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、ごみが地域の協力により拾い集められており、少なくなった。 ・公園まわりのゴミ対策はよくなっていると感じる。 ・犬の散歩する姿が以前に比べ減少したように思われるので、犬の糞害も多少減ってきたのではないかと思います。 ・生ゴミ等を出す時、新聞紙を利用してカラスなどの被害少なくなった。きれいだと捨てる人も気を付けるようになった。以前より少なくなりました。 ・我が家の近くは良くなっていると思うのですが。 ・住民もきちんとしている。 ・少しは草を取るなど良くなっているが、他は変わらない。 ・空き家はそのほとんどがアパートや貸店舗、貸駐車場に変わってきている。ゴミ対策についても市の清掃事務所と連携して、いろいろな方法で対策してきた。皆さんの意識も変わって、ゴミの放置は少なくなってきた。 ・市営住宅の住人が施設に入所されたため、片付けされて“ゴミ屋敷”ではなくなった。 ・ゴミの不法投棄については、清掃事務所の方の協力もいただき、衛生係が頑張っている（不法投棄と言うよりも集積場所への困った出し方です）。 ・ペットの糞の放置に関しては、以前よりも少なくなったと思う。

	件数	その理由
②変わらない	43件	<ul style="list-style-type: none"> ・相続問題や人口減少による影響で空き家が増えている。 ・ゴミ問題の解決のために様々な法律が制定されている。 ・道にゴミを平気で捨てる人もまだ多くいる。 ・ごみ出しする人のモラルのみ。 ・一部は繰り返し粘り強く活動し、良くなった部分もある。(ペットの糞の放置、ゴミ出しマナーはずいぶん良くなった) ・改良住宅がほとんどなので空き家が少ない。 ・空き家は時々管理されている。 ・ゴミの出し方が悪い人がいる。 ・近所の様子にあまり変化が見られない。 ・犬の散歩で糞が片付けてなく放置されています。 ・道路のわきにごみが捨てられている。 ・最近空き家は少なくなり整備されてきたように感じます。道路の歩道が雑草で汚いと、ゴミを捨てる方が多いです。 ・特に変化は感じません。 ・ポイントを付与するなどの取り組みを継続して行うようにできたら、住民意識も良い方へ変化するのではないのでしょうか。捨てやすい場所は、除去してからまた捨てられてしまう。 ・取り壊しが増えたと思います。 ・私の担当の地区はあまりそんな苦情はないと思います。 ・野良猫やカラスによるゴミの散乱には手を焼いている。空き家の放置は今後も増えると思います。 ・田畑にカン、ペットボトル、ゴミなどがあいかわらず捨てられている。 ・他区長の方の努力でないです。 ・今一度ゴミの講習会を開くと良いと思う。 ・互いに自分は行動せずに、誰かが動くと思っているのでは。 ・法律での規制(税制の改正)緩和が必要。 ・地主への補助金の周知をすべき。 ・空き家が年々増えている。 ・コンビニ近くにペットボトルなどゴミが多くみられる。 ・近隣地区になるが、何ら変化なし。 ・県道市道の除草がされていないと、荒れたイメージがあり、不法投棄につながってしまうのでは。
③悪くなった	20件	<ul style="list-style-type: none"> ・数を調べたわけではありませんが、そう感じます。ただ、何か月か過ぎると更地になっている。

事業所アンケート調査結果【民生・児童委員】

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪臭の問題もある。 ・ 目立つ。防犯上も徹底調査が必要では。 ・ 空き家は増加している。放置される場合もあるが、解体される場合もある。空き家にならない施策が望まれるが、若者の流出に歯止めが利かない現状でどうにもならない。 ・ アパート等のごみの飛散。空きカン、ビンの投棄が目立つ。 ・ 空き家が目につくようになった。 ・ ゴミが公共の道路等に落ちていたり、分別がされていない場合がある。 ・ ゴミを捨てる人のマナーが悪い。 ・ 空き家が放置され、空き家が増えている。 ・ 空き家、空き土地に外国人のヤードが多くなった。 ・ 空き家の増加。道路に面した集積所への不法投棄の増加。 ・ 新規外国人のアパート入居者の方分別の仕方が分からないため、町内役員さんが苦勞している。 ・ 空き家の数が増えてきた。また、空き家の周囲の草木も放置されている。 ・ 高齢者死亡で空き家、畑の放置が増えているような。一応、相続放棄という感じではないけれど。 ・ ゴミの分別が不十分。業者も持ち込んでいるようだ。町内会の管理不足。 ・ ひとり暮らしの高齢者が確実に増加している。亡くなれば空き家になることは必然の理。 ・ ゴミの不法投棄が多い。 ・ 空き家住居が放置されている、ハクビシンと思われる動物を見かけた情報ありました。 ・ 町内のゴミ出しが悪い。不法投棄が多い。 ・ アパートのごみ出しが悪い。分別が悪い。
④わからない	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家が増えるのは仕方がないと思う。ただ、他市町村から移ってくる人も増えないので、選ばれる町になるといいのだが。 ・ 春日台も空き家が増えているように思います。 ・ 前回のアンケートに回答していないので。

(7) 民生委員・児童委員の権限と活動について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ひとり暮らしの男性の登録が少ない
- ・コミュニティと民生委員・児童委員の関係ができていない
- ・高齢者の施設入所等の情報が把握できないので対応に困る 等

	件数	その理由
①良くなった	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・民生の関わる範囲が広く、深く関わるには狭くなり、まだ関わり方に戸惑っています。民生になる前に比べれば、市役所の方、民生の方、社協や包括センターの方々と繋がり、いろいろ勉強させてもらい活動でき、ありがたく思っています。 ・良くなったと思う。コミュニティの一員として行事に参加等活動をしている。 ・出生数は減っていくが、主任児童委員として訪問に関わらせていただけることはとてもありがたいです。子育て世代に声をかけられることや孤立させないことをこれからも大切にしていだけたらと思います。 ・コミュニティと民生委員と一緒に活動することが多くなったと思います。春まつり、小学校除草作業、もちつき大会、サロンなど ・LINEを利用して連絡や情報が入りやすくなった。 ・コミュニティに加わり活動する。 ・毎月ひとり暮らしの方の訪問を行っているので、どの方とも顔見知りとなって少しでもお話ができるのが楽しいです。ひとり暮らしの方がもしも急に入院、または施設などへの入所があった場合、一報していただくと安心です。 ・高齢者の施設入所等は包括支援センターの方々の早々の対処にて安心して見守り等ができます。 ・コミュニティの活動が多くなっています。その活動の中で町内の方々の顔がみられて、情報交換の場ともなっています。 ・南コミュニティと民生児童委員はしっかりと関係を神谷さんの働きかけでできている。民生委員だけでなく、地域の人達もコミュニティとの関係を広げている。 ・年役員（顧問）も兼ねており、地域の情報が把握できるようになった。
②変わらない	51件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に取り組む人々との情報共有を図るシステムが必要である。 ・対象者の明確な区分がない（市登録の独居高齢者は除く）。

事業所アンケート調査結果【民生・児童委員】

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の情報が把握しにくい。 ・男性は登録者が少ない。 ・コミュニティの行事にはなるべく参加するようにしているが、相互に意見を出し合い、改善する関係はきくであるように感じる。 ・ひとり暮らしの方からの情報しか、地域住民の方の情報が把握できない。私は男子だから特に町内の男子のコミュニケーションの機会がない。（情報は妻から） ・施設入所の情報がすぐに入っていない。 ・担当している民生にかかられている方が入院となり、市の方へ報告しましたが、その後の報告が市の方からはなし。 ・相談が少ない。困りごとは話さない。話せないのか。やはり自分のことで言い出せないのが現状。プライバシーの問題で、なかなか聞けない現状。 ・全体的にコロナ前の水準にはもどりつつあると思います。 ・民生委員・児童委員の会合が出席者の出席率が良くないため連絡等が不徹底。 ・学校からの情報が乏しい。逆に「学校行事に参加して、気になるお子さんがあったら教えてほしい」と学校側から言われるが、1、2時間参観ただけで判断するには無理がある。 ・変化したところがわからない。 ・今までと一緒にひとり暮らし男性の方は登録が少ないです。コミュニティと民生・児童委員の関係が希薄だと思います。 ・“相談者と関係機関の橋渡し”が民生委員の仕事となっていますが、それだけに終わらない活動になっているのではないのでしょうか。一人住まいで困っていらっしゃると、民生委員の仕事範囲外を理由に断れない場合があります。おそらく他の委員の方も同じような事に対応していらっしゃるのではないのでしょうか。このような事を問題視しているのではなく、福祉課の皆様には、この現状を知っておいていただきたいと思います。 ・登録することの必要性やメリットを感じていないのでは。 ・ひとり暮らしの訪問（声掛け）、チラシの配り、イベントの報告、呼びかけ等。 ・ひとり暮らし登録されていた人が施設入所知らせをもらったら訪問していません。 ・コミュニティ活動にも参加していますので、良い関係性ができて

	件数	その理由
		<p>いると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の施設入所情報が近所の方が教えてくださいますので、感謝しています。 ・（高齢者の施設入所等の情報について）市に連絡あれば知らせてほしいです。 ・高齢者のひとり暮らし及び二人暮らしの方々の存在が把握できない。支援は限定的となる。 ・元民生児童委員であった人がコミュニティの役員となり、関係性は良好になった。社協で地区民生の活動に対して補助してもらっており、コミュニティの行事に対しても積極的に参加するようにしている。コミュニティから情報をもらうことも増加した。 ・活動が多い、昔より多い。 ・男性のひとり暮らしのお宅へお邪魔するのが躊躇されるのか。 ・民生委員のなり手がなく困っている。 ・ひとり暮らしの方は元気なので、登録はまだ良いと言われる。高齢者の施設入所等の情報がないため、対応に困りました。 ・やはりひとり暮らしの男性とのコンタクトが取れない。女性は少しずつだが登録は増えている。 ・独居の人が増加しており、今後も対応が必要。 ・あまり変わらないが、包括支援センターとの情報交換を行うことで、施設入所等の情報を把握できることもある。 ・ある専門部会で、長年民生委員をされた方の意見を聞いたが、「昔と今とでは民生委員のあり方がずいぶん変わった」と言ってみえた。「昔はもっと積極的に関わったし、行政もそうした方向であった。しかし今は、なかなか難しい点があるのではと思っている」との意見を聞き、時代、社会の変化を私自身は痛感した次第である。 ・現状維持だけで精一杯。
③悪くなった	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護のため、おもいきった活動がしにくい。コロナの影響も大きく、活動に制限があり、活動がしにくかった。 ・集合住宅の情報が分からない。 ・高齢者施設に入居された人の情報が把握できない。 ・頼まれることが多くなっている気がするが、何をどこまでしていいのか、何を求められているのか、今一つ分からない。 ・コミュニティ職員の高齢化が進み、実際に動くスタッフが足りな

事業所アンケート調査結果【民生・児童委員】

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> い。また、協力者がいない。 ・民生委員・児童委員のなり手がなく困っている地域が増えつつある。 ・コミュニティの要員として民生・児童委員がいいように使われている面がある。 ・地域住民の情報を把握することが難しくなっている。 ・外国人が多くなっている。 ・最近福祉課からの情報が少ない。
④わからない	16件	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年12月に任命され、どこまでのサポート（その方への質問等）をするかが、まだはっきりと分からず対応に迷う。 ・民生委員の認識にも多少問題があるが、（新任期目のため）情報量がアンバランスで本来必要とされる担当地域の情報が少ない。 ・民生・児童委員の「権限」って何でしょう。 ・コミュニティと民生委員の関係はできているように感じる。 ・独居高齢者の情報がつかみづらい。市の方から情報、本人へのDM等できないか。 ・神島田地区でもお年寄りの方々の居場所作りをと、定期的にサロンを開き動き始めています。 ・民生委員になってから男性登録者がいないので、回ったことはないのですが、今後、自分も年齢を重ね登録者が出て、認知とかある場合ひとりで訪問するのは怖いと感じます。 ・前回のアンケートに回答していないので。 ・「ひとり暮らしの方の姿を見ていない」と本年2度（2人の方）、近隣住民の方が心配されるということがあった。ショートステイや身内宅に行っていたということで事なきを得たのですが、その時々情報を得る方法がなく、市からの連絡をいただくまで近隣住民の皆さんと不安な時を過ごしたことがあった。 ・高齢者の方々は民生委員の活動を理解されているようですが、20代～50代の方は、あまり知られていないです。このままでは次期の担い手が見つかるかとても心配です。 ・民生委員になり2年目なので、どう変化したかよくわからない。 ・把握は難しい。

5. 障がい福祉事業者

(1) 新たなサービスを行う上での問題点や課題について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・児童指導員の採用が難しい
- ・重度障がい者を受け入れる生活介護事業所が少ない 等

	件数	その理由
②変わらない	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度はこの地域で働いていないが、現在も困っている。 ・日中支援事業所の数が少ないため、本来であれば24時間看護が必要な利用者の行き先がない。 ・以前同様、重度障がい者の受け入れは難しいと感じる。 ・新たなサービスを探すことが困難なことがある。 ・スタッフ採用等が難しい。 ・あまり変わった印象を感じない。日中支援型GHは増えたが。 ・医療的ケア児を受け入れる事業所が津島市内にないため、他市町村にある事業所に利用者が集中してしまっている。 ・現在、障がい福祉は人材不足でありながら、有資格者や経験のある人材を確保することが難しい。それにより受け入れにも影響がきていると考えます。 ・障がい者雇用について、企業側の障がいに対する理解に差があると感じています。法定雇用率を満たすために雇用するという認識がまだまだ多い印象です。そのため、障がいを持つ方の就職先が限定されていると感じています。
③悪くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動が事業化になってきたように思う。 ・障がい者の数は増えてきている。平均寿命と同じように、健康寿命が伸びていないから。
④わからない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・今年開業したため、令和元年当時が不明。 ・現在あまり接点がないため、変化に気付いておりません。 ・児童、重度の子と接することがない。

(2)津島市において不足しているサービスについて、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がい福祉サービスの希望者が増加しているが、相談支援事業所や相談員が不足している
- ・就労継続支援A型や就労移行支援事業所が少ない
- ・ヘルパーの高齢化など人材不足で利用日数が限られる 等

	件数	その理由
①良くなった	1件	・相談員さんの力も借りて、サービスの利用ができています。
②変わらない	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も困っている。 ・今回の報酬改定でA型事業所の運営が厳しくなったが、令和元年度よりもA型の数は今後減少すると思う。 ・あまり変わった感じがしません。 ・各種サービスの事業者数の不足は感じませんが、事業者のカラーの違いをさらに発揮できるような横のつながりを活性化できると良いと感じます。また、サービス事業所が適正に運用されているのかの確認（監査ではない）を進めると質向上につながると思います。
③悪くなった	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に対するイメージが悪くなってきている。 ・近隣の事業所Aが閉鎖となってしまった。 ・A型の存続が難しくなっているため、A型は減っている。移行支援事業は、短期間で就労に結び付ける人の利用になってくるので、利用しにくい面もある。 ・相談支援事業所や相談員が不足している状況が続いている。また、児童を受け入れる相談支援事業所が少ない。就労継続支援A型が少なくなった。 ・報酬改定により厳しい状況下であり、就労継続支援A型は減少している。現状以前と比べ厳しくなったと言える。 ・当社に依頼が入ってもヘルパー不足で受けられないことがありました。介護もそうですが、ヘルパー不足が進んだように思います。
④わからない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望者は多いが、職員確保が困難なため、これ以上施設を増やすことができない。金銭的支援がないことも原因の一つ。 ・他分野のため。 ・A型は少なくなっているが、本当に困っている人がいるのかは不明。リアルに困っている人がどれだけ増えているかを知りたい。

(3) 地域移行、一般就労移行について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・就職先、受入先がない。受入後のサポート、継続していく支援が少ない
- ・ジョブコーチが必要
- ・バックアップ施設と海部障がい者就業・生活支援センターの連携 等

	件数	その理由
①良くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・津島市に基幹相談支援センターが開設されたことで、今後もどんどん良くなっていくと思う。 ・A型でも事業所の職員が一般先との連携を取ることはできる。
②変わらない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も困っている。 ・本人の希望に全て沿うことはなかなか難しい。 ・企業側の採用条件だけでなく、企業体力等含めて考えると以前と変わらない印象です。 ・就職先、受入先の件もだがサポート、継続していく支援が少ないのは変わらない。 ・ご自宅に戻られても受け入れる事業所が少ないと感じます。 ・企業側の理解促進が必要だと考えています。
③悪くなった	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者より事業所が主体となってきている。
④わからない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・心の通った支援ができていない。 ・関与する場面がなく、分かりません。 ・他分野のため。 ・津島市は企業が少ないので、障がい者の手帳枠での就職も限られる。 ・あまりサービスと関わらないため。

(4)他の団体との連携について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・事業所同士の連携や交流が少ない
- ・個別支援会議は増えたが、中学校との関りが薄い
- ・事業所が特別支援学校や特別支援学級と連携強化したい 等

	件数	その理由
①良くなった	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・社協、生活支援部会に所属することで、同業者との連携が増えた。また、運営上の課題解決に向けた具体的な支援を受けられる。 ・生活支援部会で地域連携推進会議勉強会も増えたことで、グループホーム同士が会う機会が多くなった。 ・交流の場があり、とても助かっている。 ・良くなったかは今も努力して部会を運営し、横との連携を意識してやらせてもらっています。 ・コロナの状況も落ち着き、はたらく情報発信フェアの開催やチャレンジド・フェスティバルの開催予定があり、事業所同士の交流の場が増えてきている。
②変わらない	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・同グループ内では連携しているが、相談施設以外の他事業所とは繋がりは薄い。 ・部会や支援会議などあるが事業所同士の連携や交流の少なさは変わっていない。 ・特別支援学校の体験受入はあるが、連携はまだ少ないと思う。 ・放課後等デイサービスの利用により、落ち着いたり、能力を発揮できる方もいらっしゃいます。そのため、小学校の頃からサービス事業所とつながりを持つことができれば、家庭環境も落ち着くことが可能だと感じています。
③悪くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒心が強くなった。 ・連携の必要性は理解できるのですが、何をという連携するための目的が不明確な印象を持っています。
④わからない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度が不明なため。 ・一度も連携、交流の機会はない。 ・事業所同士の連携、交流に関して、それぞれの事業所のやり方、待遇等も違うので、交流はやりにくい。支援者が少ないと交流の時間が取りにくい。

(5)障がい者を取り巻く地域社会のあり方について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がい者が安心して住める地域づくりを行政、民間が一つになって進める
- ・当事者・家族のニーズをくみ上げる 等

	件数	その理由
①良くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・移動支援で買物同行が可能になったため、地域の関わりも増えると思う。 ・以前よりは理解ある環境になったのではと感じる。 ・令和6年度に津島市基幹相談支援センターが設置され、地域住民等からの相談が増えてきていると聞いている。
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・現状あまり変化を感じないが、地域連携推進会議の運営を通じ、事業者として地域に積極的に情報発信すべき。 ・障がいの方への理解をしていく機会を作ることが難しかった。 ・まだ地域社会から障がい者への理解は少ないと感じており、当事者にとって住みやすい地域作りができていないかと考えると疑問点はある。 ・二極化が進んでいると感じます。地域との関わりやサービス利用、仕事をするには、本人の意思に基づくべきではありますが、本人の意思を引き出そうとする取り組みも必要だと考えています。
③悪くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・利害意識が強くなった。 ・物価高騰生活のしづらはきつくなりました。また便利な世の中になり、人とのつながりがさらに希薄になったと思います。
④わからない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度が不明なため。 ・現時点で良い方向に進んでいるようには感じられない。 ・家族から要望はあっても、当事者が望まなければできないことも多々ある。家族は支援施設の利用を望んでも、当事者が望まなければそれができない現実。なんでも行政にお願いすることも不可能。 ・活躍できる場の確認ができた、機会があれば良いが、そういった場を自分は把握できていません。

(6)津島市の福祉施策に関する要望について、どう変化しましたか。

令和元年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・地域生活支援事業について、自治体間格差を解消してほしい
- ・多様なニーズに適応した福祉施設の整備等財政措置の充実をしてほしい 等

	件数	その理由
①良くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・移動支援がとても使い勝手が良くなった。 ・相談にのってくれたり、助言をいただけたりしている。
②変わらない	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設の整備等考えると、報酬改定による締め付けもあるが充実しているとは言いがたい。 ・民間法人としては、情報の循環が可能な仕組みづくりを進めてほしいと思います。必要なところに情報がいきわたることでサービス利用につながる事が可能になると思います。
③悪くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって支援の質の差がより大きくなった気がする。A型が減少するのに対しすぐ動く方と違う方で対応がまちまち。
④わからない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度アンケートをもとに改善した結果を知らない。現在も困っている。 ・行政主体のルールに従っているため、非常に不便。 ・当事者や家族でなければ、障がい者や高齢者に税金をかけたいと思う人は少ないのが現実。これからは担う若者、子どもや高校無償化の方にお金をかけたいと思う人の方が多いから。 ・社会というかなんだか世の中全体が暗い印象です。

(7) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。

件数	その理由
11件	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で障がい福祉の方が入居されていないので、アンケートわからないで答えさせていただきます。 ・令和元年度からの変化は分からないが、障がい者を支援する側の人材不足が考えられる。家族だけで負担することではないし、ボランティアでやることでもないと思う。そのためには、しっかり職としての地位を上げていく必要がある。障がい福祉に関わる仕事を「ツライ、きつい」から「カッコいい」「やりたい」仕事にしていく必要がある。 ・訓練等給付費が少ないため、職員を最低賃金で雇うことが困難。物価高騰により、良いサービスを提供・維持することが難しい。 ・低所得者のみならず、小規模福祉施設に対しても給付金etc.をもって経済的支援をお願いしたい。 ・身寄りのない利用者様の夏期（お盆休み）、年末年始でのご利用について、日中支援加算が制度化されると助かります。 ・高齢者の相談事業（ケアマネージャー）も行っているので、親亡き後につなぐ自立生活援助を推進していきたい。 ・地域の自治体などの一般企業先と事業所とのマッチングなどを行うイベントがほしい。少しでも一般企業に障がい者を送り出していくためには地域で働ける場所がほしい。 ・現場で起きている問題を、連携をとることで解決につながることも多いので、そういう機会がもっとあるといいなと思います。 ・地域で生きていきたいと思う当事者は多くいても、支援者との相性、支援者のやり方などで左右されることが大きいので、支援者の研修が大事だと思います。また、福祉を勉強して、当事者に寄り添った支援ができる人材を増やすことも大事だと思います。 ・送迎の問題が今後は課題となると思います。スタッフの高齢化や様々なニーズに合わせると厚労省も動くようですが、地域の事業所同士で共有して送迎を行っていただけるような仕組みや、バス会社等とも連携して行える仕組み作りができればと思っています。そんな仕組みを一緒に考えられるような有意義な話せる場を作ってもらいたいです。 ・地域福祉として、人材確保について現状なかなか難しいと考えています。有資格者や経験のある人材を確保する点についてなかなかうまくいかない。利用者にとって居場所として提供するにあたり、どのようにやっていけばいいか何が正解というものはないため、日々悩まされています。 ・障がい専門の事業所を増やす必要があると感じます。

2 共通アンケート調査結果

(1)津島市における地域福祉の問題点や困りごと、今後行政が力を入れて取り組むべき施策・事業について

I 地域での理解

事業所	件数	要望・提案
幼稚園・保育所・認定こども園	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページをもう少し見やすくなると良いかと。子育てに力を入れていることを市のHPトップ画面に動画などでアピールするのはどうか。 ・デジタル化社会となっているので、アプリやwebを使用しての情報は時代に合っていると思う(若い世代)。年代ごとのニーズを考えることは重要だと思う。 ・広報紙もそうだが、ホームページをみる方も多いので市民に周知啓発をし、情報提供することが大切。 ・子育て支援情報の提供方法の工夫 ・ワークライフバランスの時代、仕事も育児も生きがいもすべての充実をめざす意識がみんなに根付いてきた。地域福祉の担い手の生活が充実しないと、福祉分野に就職したいと思う人材がなくなり、結果、地域福祉を維持できなくなる。根本的には、人件費単価、配置基準の見直しが国の方で必要。 ・ホームページの充実(プロに委ねる)、インフルエンサーを起用(SNS)
小・中学校	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・メールやSNSを利用して、プッシュ型の情報提供を積極的に行う。 ・広報紙やホームページでイベントの情報を目にするが、土日のどちらかが仕事だったり、休日に親が休息を望む家庭が多いので、なかなか参加が厳しいのが現状である。 ・学校ホームページで学校の取り組みをしたり、コミュニティの班回覧でプリントを配布したりして情宣活動に取り組む。(今もやっています) ・行政より、地域に情報提供や広報活動をしていただけるとよいと思います。 ・広報紙やホームページなどでの情報提供をし、人海戦術で気になる家庭・住民に直接対応することが大切。情報提供するだけでは、効果は薄いと思う。 ・幅広い年齢層に見てもらえるような広報紙の構成と内容が必要。若い世代はインスタグラムをよく見るので、SNSの活用は大切である。

事業所	件数	要望・提案
高齢者支援事業者	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の参加は興味が薄く現実的に難しいと思いますが、SNSがコストもかからず有効でないでしょうか。 ・福祉サービスを市民全員ができるようなシステム作り。方法は紙、ICTで啓発する。 ・SNSの活用 ・高齢者に向けた情報発信の工夫 ・民生委員との関わりが薄いため、情報共有・交換の場を作る。 ・学齢期から福祉体験活動を充実させ、その理解に努める。 ・地域ラジオ放送で周知啓発する。 ・広報紙は月に1回の配布なので、月末のイベント等は忘れがちになる。SNSやLINE等の情報発信を充実してほしい。 ・機会があれば福祉用具等のイベントを開催し、幅広い年代の方に知っていただく。 ・老人クラブ、ボランティア、包括支援センターがよい取り組みをしているので、広く市民に伝わるようになるとよい。小さな集いでもPRの機会として活用する。 ・情報を受け取ることができる人とそうでない人の差が出てしまうため、必要な方にその情報が届く工夫があると良いと思います。
民生・児童委員	32件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の充実。広報誌、ホームページ、SNSなど活用して町政に興味関心を持っていただき、町作りへの参加意欲が高まる情報発信をする。 ・高齢者はホームページや広報紙のみだとなかなか情報を知ることができないので、それが伝わる方法を考える必要がある。 ・小中学生向けの講座や出前授業を実施し、周知を図る。また、老人会などの団体などにも同様。 ・啓発方法。町内会を利用。ただし百島町約500世帯あり、一同を集めるのが困難。 ・広報紙やホームページに目を通し、的確に理解している人がどれほどいるのか疑問。 ・市役所から各町内への出前講座も必要では。 ・ひとり暮らし高齢者対象の見守り時「地区協だより(年4回程)」を作成・配布しているが、地区に役立つ情報を広報する方法を考慮してほしい。 ・行政が先頭をきって各イベントに参加して一般の方を巻き込むようにする。 ・市政のひろばをスマホから見られ、クーポンなどをつけると若い人に情報提供できるのでは。

事業所	件数	要望・提案
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNSで発信していく時代になったと思う。しかし、本当に必要な方に情報が届かないもどかしさを感じる。近隣の地域コミュニティで伝わるようになってほしい。 ・NPO法人の働き手が高齢化しており、法人の維持だけで精一杯です。 ・町内会の活性化 ・市のPRをメディアを通して行うことはできないか。市の特長をアピールし、人口増加と福祉サービスの充実を発信する。 ・各団体組織の横断的な情報共有化を図る。 ・活動の注意点・良かった活動報告をお願いします。 ・高齢者や妊婦の体を疑似体験 ・定期的なイベントの提供。例えば、家の中の洋服や食器等、不要になったものを提供してもらおう。または家主（提供者）が立ち会おう。できれば月1回実施。 ・天王川公園のこども・幼児の利用が多くなり、天王川でのイベントを多くし、多くの人が集まる場で福祉事業の取り組み・PR・各種活動の啓発を行う。 ・コロナ禍後に動き始め、まだ勉強中なので具体的な意見等まとまった提案が難しいです。すみません。 ・現在やっている活動を継続していくことも大切だと考える。 ・広報紙の配布が町内会経由でなくなったため、楽にはなったが町内会の結びつきが減ってしまったと思う。 ・地域福祉の啓発は、広報やホームページ、イベント等で周知はできると思うが、それを地域ぐるみで行動・実践にうつせるかは別の問題だと思う。 ・高齢者にはHPはやはりハードル高いので、やはりチラシ的なものからですね。 ・高齢者は多くなっているのでも、HPなど開いて見ない。町内会などへ協力の要請としてチラシやイベント情報の発信を説教的に行う。 ・多種多様な福祉サービスの周知が必要。社協と協力して福祉実践教育の充実を図る。心優しいこども達に育つように幼少より教育をすること。 ・クローバーTVでの広報を活用する。 ・広報を読んでいる方は何%いるのか知りたいです。 ・情報提供していると思う。 ・今は、夫も妻も働かなくては、食べていけないようになっている。イベントなど土日や夕方でないとうちで参加できない。労働時間を

事業所	件数	要望・提案
		<p>短くして賃金も上げてくれれば生活に余裕ができて、自分のことだけでなく人に対して優しくできるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな福祉サービスがあるかを市が市民に向けて、啓発活動を行い、周知を図る。 ・60代や70代の人々が、自分も含めて周りの人にそのサービスに参加することを積極的に勧める。それが、地域福祉の充実と理解につながっていく。 ・年代ごとのニーズに合わせた情報提供はとても大事だと思います。家庭の中でもそれぞれの忙しさから会話も減っていますし、親から子へ伝えられる情報も少なく、スマホからの情報は興味のあるものに偏っています。活字でもイベントでも、心に響くような語りかけの情報提供を期待します。 ・福祉サービスの情報提供は重要
障がい福祉事業者	15件	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の重要性は感じます。 ・イベント周知にはお金が掛かると思いますので、低予算で、ほしい人に伝わるように、InstagramとかXなどを利用するのはどうですか。 ・SNSの活用。マスコットキャラ等、目に付く工夫が必要。 ・福祉＝ボランティアではない。福祉に関わることで、自身にどのような利点があるのかを知る必要がある。自分のことで精一杯と感じている人が多い中、最低賃金で他人の世話をすることの意味を理解する必要がある。 ・遠くには出かけられなくても、近くでイベント等があれば出向きやすくなると思います。 ・次年度から義務化される地域推進会議について、広報誌に取り上げていただきたい。 ・知的障がいのある成人の方がもう一度学問を学べる場所があると良い。 ・協カインセンティブの提供（地域内で使えるクーポンや活動に応じた感謝状など） ・能力や年齢に合ったイベントを開催し、参加できるよう周知していく。 ・イベント活動等を多くし、地域の交流を多く持つ。 ・助け合いや、交流活動を盛んにして、福祉について触れ合う時間・場所を設ける。道路や公園、商店街などを整備して、障がい者や高齢者も楽に外に出ても困らないよう、車椅子用トイレの設置、バリアフリー、ベンチの設置をしていく。 ・地域にどのようなサービスがあるのかの周知をもっと分かりや

共通アンケート調査結果【 I 地域での理解】

事業所	件数	要望・提案
		<p>すぐできると良い。WAMNETとかだけでなく、市内の方に幅広く伝わるように。地域の保育園や、小中高校との連携ももっと行政を通じて行えるようにしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい福祉サービスの認知度が低い。特に就労移行を理解されている方は皆無に等しい。 ・ 津島市障がい者総合支援協議会が開催するチャレンジド・フェスティバル等の行事を通じて、事業所や障がいのある方と関わる場を継続して提供していく。行事等であれば地域住民も気軽に参加することができるのではないか。また、チラシを関係機関やコミュニティに周知を継続して行っていく。 ・ 現在、社会福祉に関してまだ理解されていないと思うことがある。各種イベントを開き、それぞれの事業の情報提供が必要。

Ⅱ 地域での共生

事業所	件数	要望・提案
幼稚園・保育所・認定こども園	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもが楽しく参加できるようなイベントを増やすと交流が深まり、連携が取れるようになると思う。 ・幼保と小学校の連携をもう少し長期でこどもの姿を見守ってはどうか。架け橋プロジェクトへの取り組みがまだまだな気がします。小学校を見学させてもらうなど、小学校への憧れと期待感がもてるような取り組みがあれば小学1年生の行きしぶりなど減るのではないか。 ・南小校区はコミュニティ活動が充実している。自主的な参加、協力を促したり、様々な機関が集まり活動を盛り上げることが大切。 ・コミュニティの活用 ・地域の困りごと、課題を地域住民が理解して、助け合う必要性を感じたら、金銭ではなく、思いやりの心で参加していきたいと思う。 ・コミュニティ活動の予算を増やして、より多くの人が集まる場ができるとうい。人が集まる大きくて楽しい公園をたくさん作ってほしい。
小・中学校	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨を発行（津島市だけが難しければ海部地区）。地域イベントへの参加で通貨がプレゼントされたり、通貨を利用すると安くなったりする。 ・同窓会補助金支給（18歳、20歳、25歳、30歳）。津島の飲食店を必ず利用。恩師の証明書、参加者名簿提出。 ・地域主導でこどもが参加できる活動を企画する。こどもが動くとうい親も動く。 ・コミュニティ主催の行事に積極的に参加する。 ・自主的に参加していただいていると思うが、ボランティアの方々に頼っている面も多いように思う。行政も共に活動していけるとよいと思う。 ・コミュニティにはとても助けてもらっています。学校での行事に地域の方がボランティアで助けてくださっていること、本当にありがたいです。 ・少子高齢化社会。若い人材が活動活躍できる町や地域作り。 ・津島市在住のメリット作り。特に若い世代へ。
高齢者支援事業者	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によってはお互い様の支え合いが残っています。もっと小さなコミュニティという考えもいいのではないのでしょうか。 ・コミュニティの場を多く作る。

事業所	件数	要望・提案
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の拡大 ・サロンの充実 ・ボランティア通貨（ポイント制） ・個人情報の取り扱いがあるため、取り組みにくい。 ・コロナによりサロン活動が縮小したことで、高齢者の集まる場所が少なくなった。 ・生徒・学生が地域活動に参加する時間を学校のカリキュラムの中に入れる。そのことにより、将来地域活動に関心を持つ方々が増えるのではないか。 ・津島市民病院祭りのようなイベントを津島市でも（天王祭り）開催すべきだと思います。 ・地域の方と気持ちの良い関係を築き、相談しやすい窓口となる。 ・各校区コミュニティの好事例を共有。周知する機会を作る。ケーブルテレビやFMななみ、交流会など。 ・自主的な参加をするためには、最初の一步を踏み出す勇気を後押しできる取り組みが必要かと思います。共生の活動が、安心と安らぎの場であることを様々な手段で伝え続けていくことが必要だと感じます。
民生・児童委員	35件	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係（子ども会、PTA、お祭り、町内会）が薄れていく中、存続・復活、新しい形の関係に向けての真摯な取り組み。 ・自治団体の充実を図る。自治会などの主体的な活動が活発化するよう支援を行う。地域での情報提供や情報交換の機会を作り、自治活動の充実を図る。 ・若者のボランティア活動の参加が少ないので、もっと宣伝してほしい。ボランティア募集の情報を発信する。 ・自治活動の重要性などを地域の行事などの場で周知する。 ・町内会での活動。財源の確保 ・コミュニティ、町内会、各種ボランティア団体等は役員（会員）のなり手不足が深刻。早急に手を打たないと。末端組織のメンバーは素人の集まりのことが多く、問題点は分かっている、それを打開するための具体策に乏しい。 ・町内会長及び班長の役割強化が重要。隣人との顔の見える関係づくりが原点となる。 ・コミュニティ活動はイベントとしては参加が多いが、各個人をつなぐ方法は困難な状況。 ・職員がやる気のあるよう教育をして活気ある町づくりをすることが、市民が住みやすい町になると思う。 ・様々な自治活動団体への関わりの基礎にはPTA活動や子ども会活

事業所	件数	要望・提案
		<p>動からのつながりがあると思う。しかし現在一番基礎となるPTAや子ども会が危機的状態になっている。地域への関わりを築くために段階的に関わっていけるシステムができると良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会主導による子供獅子、祭礼、ゴミ拾いetc. ・コミュニティ、老人会、子ども会等個々の活動はあり、ただ各活動の横のつながりが薄いと思われる。打開策はなかなか見つけづらいのが現状です。 ・コミュニティ活動で持続可能な活動案を考察し、具体化する。 ・会話の少ない高齢者の方が目立ちますので、市民活動、ボランティア、その他の交流を。 ・コミュニティ活動のマンネリ化 ・地元のスーパー、カフェ等との連携で交流に消極的な高齢者、障がい者の方達との関係作り。できれば空き家等を利用する。 ・地域住民への広報活動の重要性。目立ったジャケットやベスト等を着用し、地域活動の様子を見える化する。 ・新しく入居された方の中に、自治会への入会を断る方がいます。ただ、ゴミ出しは普通に出したいといった自分本位な考えの方がいますので、今後そのような新しい入居者が増えないか危惧しています。 ・地域住民が集まる減少（秋祭り町内の子供神輿、町民参加の運動会の廃止等による地域自治への関心の減少）、このようなことへの資金援助 ・地域住民と関わりの深い人物や場所を考え、協力を求めることも1つではないかと考える。 ・お年寄りのスポーツに力を入れたらどうでしょうか？卓球とかウォーキング ・地域住民の減少と高齢者の増加が進み、住民同士の密な関係性が薄れている。若い人も地域のイベントや自治活動に参加し、住民を支え、安心して暮らしていける地域をつくってほしい。現在抱えている町内会全体の問題を話し合う場を持つことで、住民が暮らしやすい地域づくりをする。 ・転入者への町内会入会の市役所からの推進。入会自由と打ち出すと市民も無責任になってしまいがち。まず、学校、町内会等で最低限の付き合いは必要だと思う。 ・有能な人材の掘り起こし。 ・自治会（町内会）の活動に対し、消極的な方が多く、住民主体で困っている人を助け合い、支え合うことは難しい。プライバシー

事業所	件数	要望・提案
		<p>の問題もあり、隣近所でも手出しは難しい。公的な要支援者の登録を進め、手助けが必要な方を明確にする取り組みが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くからのご近所さん以外では、組織だった支援員でなければ安心して家に入れられない世の中になりつつありますので、やはり社協や事業所支援を厚くした方が良いのではないかと。 ・高齢者までの就労者や高齢者の一人・二人暮らしが多くなっていて、ボランティア等への参加は期待するのは難しい。コミュニティなどで専任者を雇うことも考えていくべきでは。 ・コミュニティが現在様々な活動をしているが、予算を立ててさらに充実させる。成年後見は専門性が必要で、社協や市で専門家を育成する必要がある。 ・こどもの行事（例えば運動会）親（特に父親）の参加が昔に比べて多く感じられる。こどもの行事を増やすことは。 ・コミュニティ活動でできる限りで進んでいる。 ・私が津島市に住み始めた頃の町内の葬式は、同じ班の人達で分担をして執り行ったりして、顔見知りになることができた。葬儀会社もたくさんでき、お金を出せば、すべてやってもらえるようになった。コロナ禍で家族葬になり、同じ町内でも誰が亡くなったかもわからなくなっている。自己責任という言葉もとてもよくないところがあると思う。（顔の見える関係づくりについて）町内だけでなく、すれ違う人とはあいさつするようにしている。もちろんよく人を見てからだが。 ・60代・70代がより地域活動に関わることにより、よき理解者となり、そのことが充実した老後を送れることにつながる。 ・啓発活動を盛んに行うことにより、シルバーパワーの意識が高まり、循環型の福祉につながると考える。 ・秋の祭りはけっこううまくいっているが、新しく居住された人との交流があまりない。祭りの組織自体に問題がある。コミュニティ活動とどう結びつけるか。または、秋祭りの組織の改革。 ・「今日一日でしゃべったのはあなただけだよ」「娘が来ないと話す人は誰もいないよ」という声を聞きます。何か楽しいことがあったら参加したいと思っている人は多くいます。認知症カフェはあるけれど「私は認知症じゃないし」。コミュニティセンターはちょっと遠いという人たちのために、たとえ週1回でも月2回でもいいので、街かどサロンのような「お茶を飲んでおしゃべりするだけの場所」があるといいなと思います。会話は元気の源だから。 ・世代間交流、年代ごとの交流重要

事業所	件数	要望・提案
障がい福祉事業者	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動優先の中で活動が主体になっていることは見直しが必要だと思う。 ・ ボランティアで楽しく過ごせる環境づくりが課題。初めて入った環境で分からないがほっとかれることがあるので、つらい。 ・ 自己責任社会ではなく、共生・助け合いが必要な社会だと理解させる。（震災時、感染症流行時など） ・ 昨今、商業施設での注文・会計の無人化が進んでおり、人との関わりを減らす傾向にある。これは、障がい者含め、社会的弱者と呼ばれる人の孤立化を加速させるものである。他人の立場になって考える。自分がしてもらいたいことを他人にしてあげる。この精神を持たなければ、共生・共存は難しい。 ・ 顔の見える関係づくりをするには、世代交代をした後にも必要ですが、高齢になった住民の方は覚えきれるか。中心となる地域の人材が必要だと思います。 ・ 町内会のイベントへの積極参加。町内会の役を担う。 ・ 不特定の世代や職業に偏らず、幅広い層が関心を集める多様な活動を企画してほしい。若者や新住民へのアプローチ→ウェルカムイベントや若者向けの活動を企画、SNSやアプリを使った情報発信。 ・ 交流できる場を作り参加をしていく。顔見知りになっていくことで、お互いのことを知ることができる。 ・ イベント活動等を多くし、地域の交流を多く持つ。 ・ 年代・性別を分けた交流が大事になるが、そのリーダーになる支援者の育成が大事だと思う。 ・ 地域のお祭りや活動にも参加を少しだが行ったり協賛したりしている。ボランティアなどの活動等も行いたい、依頼したいが、やり方が分からない現状がある。営利法人ではあるが、関係なく地域との関わりを深く追及していきたい想いはあるので、どんどん協力していきたい。 ・ 障がい者福祉制度や障がい者に対する理解がまだ進んでいないと感じるため、各校区の地区社協の会議への出席や出前講座等を実施する等して顔の見える関係作りを行っていく必要がある。 ・ 地域での共生のため顔合わせのようなことを行い、利用される方についてどんなものがあるか実際交流いただき、安心して暮らしていけるような取り組みが必要。

Ⅲ 地域での安心

事業所	件数	要望・提案
幼稚園・保育所・認定こども園	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・園としてつながっていたり、分かることはあるが、保護者の中にはよく理解していない方もいると思われるので、周知できるような取り組みがあるとよいと思う。 ・年に2回でも良いので、保健師さんによる子育て相談を各園にて開くのはどうか。気になる子へのアプローチが難しく、直接保健センターより、定期で開かれる園で行う相談会の方が保護者も行きやすいのではないかと。 ・相談内容は様々なので、各機関が窓口となり、相談しやすい場所を提供することが大切。 ・相談場所についての周知 ・幼児期のこどもたちが通う、幼稚園、保育園、こども園は身近な子育て相談施設だと思う。何でも相談できる関係性と必要な専門機関につなげる関係性を大切にしていきたい。 ・支援センターを商業施設の側や施設内に設置した方が良い。(田舎での単体施設は非効率)
小・中学校	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている家庭は日々の生活や問題に追われ、支援の情報に接したり、出向いて支援を求められないケースもある。 ・市の特別支援相談員、SSW、こども家庭センター、民生・児童委員 ・子育て支援センターに協力していただけてありがたい。民生・児童委員の皆さんともっと密に連携していきたい。 ・(子育て支援センターについて)学校と連携してくださり感謝します。 ・支援が必要な人はたくさんいると思います。そんな方々が相談できる場所がすぐ分かるよう周知の方法を考えてほしい。 ・人海戦術だと思う。直接足が運べる人材確保 ・安心・安全はやはり人とのつながりが大切 ・施設においてサロンの場としてスペースを開放し、相談しやすい環境を整えること。
高齢者支援事業者	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・出張も難しいですね。合言葉「シニアの相談包括へ」など、マグネットとかどうですか。民生委員もっと頑張ってくれないかな。(温度差あり) ・居宅、各種サービス事業所が窓口となり相談業務を行う。 ・店などで相談窓口を作る。定期的に開催計画する。 ・福祉全体の事業所がそれぞれの特性を理解して適切な相談窓口を紹介できるようにする。

事業所	件数	要望・提案
		<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口にも分かりやすくまとめたものを周知してほしい。(高齢者だけではなく障がい者すべて含めたものを知りたい) ・民生委員が地域で果たす役割は大きいと思うが、その増員が必要ではないかと思う。 ・津島市を3分割し、地域包括支援センター事業の一翼を当法人は担っています。高齢化が進行しているため、人材の増員を希望します。(相談員) ・支援が必要な人で津島市役所に行けない人や相談方法が分からない人のために、相談窓口の一覧を載せた分かりやすい資料をポスティングする。 ・地域包括支援センターとの関係性を深め、お困り時の相談しやすい事業所になる。 ・高齢者や障がい者同士が交流する場を設け、センタースタッフが参加し、相談窓口につなぐ。 ・相談しやすい環境はあると思いますが、アウトリーチ(出向く)による掘り起こしが必要だと感じています。ご自宅や施設へ閉じこもりたい方も多数いらっしゃると思いますが、時間がかかっても、人と会うことで心が落ち着くと感じるようになると良いと思います。
民生・児童委員	32件	<ul style="list-style-type: none"> ・主任児童委員が運営している子育てサロン・おたまじゃくしの周知もお願いします。 ・こども食堂など支援が必要な人が相談しやすい環境。他の支援センターも含めて、人間力によるところが大きいのかな？人が育つ土壌。 ・地域活動リーダー会議の設置。地域の活動リーダーを中心に防犯や交通安全などの様々な立場で地域活動に取り組む人々が集まり、地域の課題を共有しながら自主的な地域活動を検討する組織で、町内会単位や小学校単位で、地域の実情に応じた単位で設置する。 ・地域でサロン等の催しを開き、コミュニケーションを取る。 ・事例をまとめたパンフなどを作成し、気軽に相談できることへの周知。 ・支援が必要な人に相談場所があることを周知するために市から案内する。 ・全てにおける問題点を解消するための具体的な方策を提案してください。 ・近くのコミュニティセンター内に総合窓口を設置する。 ・それぞれの役で働いていただいている。

事業所	件数	要望・提案
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生・児童委員として地域に信頼していただけるように活動をしっかりとしていかなければならない。活動内容を知ってもらうために発信しなくてはならない。 ・ NPO法人の目的を果たすのみで相談することはありません。 ・ 地域包括支援センター活動の周知 ・ 関係行政機関との連絡調整 ・ 町内会長さん等、身近な方が相談にのることが大切ですが、やはりボランティア団体自治体が動くことでしょうか。 ・ 支援が必要な人を、どう支援していくのかを具体的に考えていく（組織化する）。例えばフローチャートを作る。 ・ 津島に住んで35年経ちました。いろいろな取り組みをされていて暮らしやすい津島になってきたと思っても、ニュースとかではマイナスが報道されたり、払拭するような目立った行動を期待したいです。 ・ とにかく周知されることをまず第一と考える。より一層のSNSの活用や各施設でのイベント開催など。 ・ 子育て支援センターの設置を増やしては。天王川公園の近く ・ 包括支援センターと民生委員の連絡を密にすべきだ。 ・ 地域包括支援センター、子育て支援センター等の相談機関の活動や連絡先の周知を広報やイベントで機会あるごとに行う。 ・ すぐに〇〇センターという形になっていますが、市の「福祉課」が窓口となって各センターに案内するという形も、もう少し進めた方が良いでしょう。 （地域包括支援センターを指して）高齢者は割とここが多いですけど。 ・ 大半の人たちが包括支援センター、地区コミュニティセンターが何をする所なのか分かっていない。また、場所も知らない。積極的に出向き、講座や支援内容をアピールすべき。人材不足なら雇うこと。 ・ 民生・児童委員は特別な専門家ではない。支援してくれる機関につなぐことにあるが、相談してもらえる体制が必要。子育て支援センターの充実を図ること。 ・ どこへ相談すれば良いか分からない方が多い。何でも民生委員に言ってくる。（例えばけんかとか隣同士の揉めごと） ・ 外国人の方の移住で話せない。コミュニケーションが持てない。積極的につながりを持つ方法を考える必要がある。 ・ 市の回覧板に包括支援センターや保健福祉センター、コミュニティのビラを今まで以上にはさんでほしい。

事業所	件数	要望・提案
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員をやってはじめて地域包括支援センターの存在を知ることができた。それでも子育て支援センターや基幹相談支援センターについて詳しくは私自身わかっていない。(当事者になってみないと、意識が高まっていかないような気がする) ・ 民生としては、これ以上どうすればよいのか。 ・ 相談して安心できた人、前に進めた人は、支援を求めている人に出会った時「あそこに相談するといいいよ」と勧めてくれると思います。口コミですね。何かしてあげたい人は大勢いますが、ホッとさせてくれる人はまだ多くはない。地域で相談を受ける立場の人が「傾聴」を学ぶことが大事かなと思います。 ・ 地域包括支援センターやケアマネージャーへつなぎ介護サービス等
障がい福祉事業者	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある人だけ働きたいところに地域によっての格差がある。どうすれば改善というか、まず格差に気づいてほしい。 ・ 組織を作り、人を配置するだけでは足りない。どのような人材が、どのような信念を持って従事するかが大事。安月給・重労働では良い人材は集まらない。また、資格で人を判断してはならない。資格を取る時間・お金がなくても、志の高い人は多くいる。 ・ 困っている人が発信できると良いのですが、なかには発信できずに何もしていないこともあり得ます。誰かの気づきが必要だと思います。(地域の住民の方々や、家族、支援従事者等) ・ 基幹相談支援センターをもっとPRすべき。 ・ 親亡き後の支援が必要な方々が地域で安心して暮らせるためには、ひとり暮らしを支えるために必要なサポート体制の整備が必要 ・ 自立生活援助(障害福祉サービス)の推進 ・ 相談できる場所を充実させることで、安心して過ごしていくことができる。 ・ フローチャート等を作成する。 ・ 相談支援の人材の確保。一人の相談員が数十人と抱えているのが現実なので、もっと相談員を増やし、頻繁に相談できる体制ができると良いと思います。 ・ 相談しやすい環境だけでなく、まず人が集まりやすい空間があればと思います。アフターコロナ後では難しいかもしれませんが。 ・ 相談が必要な方と繋がる環境が構築していくためには、気軽に知ってもらえるように私達も交流できる機会や見学を是非してもらいたい。“津島市こども見守り事業”見守りスポットに賛同

共通アンケート調査結果【Ⅲ 地域での安心】

事業所	件数	要望・提案
		<p>し行っています。今後も拡大し、よりよい形をと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から各専門機関と顔の見える関係作りを行い、相談支援体制を構築していく。そのために各専門機関が開催している会議等に継続的に参加していく。 ・ 利用いただく方に安心して利用いただくため各団体を強化するとともに、人員の確保が必要。

Ⅳ 地域での安心（防災・防犯・交通安全等）

事業所	件数	要望・提案
幼稚園・保育所・認定こども園	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・夜道に街灯が少ないので不安を感じる。主要な道路に防犯カメラがあると良い。 ・自治体あげての防災訓練の実施 ・こどもたちの通学路の街灯は増やしても良いのではないかな。 ・避難訓練は本番を想定して地域の連携訓練をしてはどうか。 ・訓練は必要。交通安全指導等、市内にある業者等もこども向けに伝授している所もあると思うので、そのような企業とも交流しながら安全等の強化を図っていけるとよいのでは。 ・防災・防犯については、今後、大切なテーマとなっていくので、地域の方と協力し合い進めていくことが大切。 ・防災・防犯・交通安全の地域団体はよく活動していただいていると思う。その活動を知らせるとともに、地域ぐるみの対策として地域の特色に合わせた環境整備に予算が付くとよい。 ・乳幼児施設や高齢者施設が地域住民と一緒にを行う防災訓練を企画してほしい。
小・中学校	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・西尾張TVの見守りサービスはいい取り組みだと思います。 ・学校が避難所に指定されているが、実際に開設される際の動きが分からない。どういうケースで学校側の関与が求められるのかも含め、解説マニュアルの共有や訓練があるとよい。 ・特別な支援の必要な児童の登下校は、登校時は保護者が付き添ったり送ったりしている。下校時の放課後デイサービスのよう、登校時も保護者の代わりに登校を支えるシステムがあるとよい。 ・コミュニティと一緒にを行う防災訓練 ・交通安全協会と一緒にを行う交通安全教室 ・防災防犯の方々の高齢化が心配である。自主防災会への行政の応援があるとよいかもしれません。学校を通して防災を意識していることは感じますが、地域での連携は薄く思われます。住民の方々が困らないように、緊急配備の整備・体制づくりをお願いします。 ・防災に関して本当に力を入れて変えていかないと自分達で自分の命が守れません。学校でも訓練の内容を変えて取り組んでいます。まずは防災BOXをつけて自分達で避難できるようにしてください。 ・こどもから大人まで楽しめるような「防災フェス」のようなイベントの充実化

共通アンケート調査結果【IV 地域での安心（防災・防犯・交通安全等）】

事業所	件数	要望・提案
高齢者支援事業者	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・よく老人会（小学校？）で警察から講話に来てくれているのはとてもいいと思います。定期的な防災訓練もいいですが、ここも参加は難しいですね。住民が地域に目が向くようなことができると良いですが提案なし。 ・防災訓練の継続、大規模なシミュレーション訓練 ・要支援者の把握 ・非常食配布により誰でも参加しやすいような訓練の提案 ・防災グッズの展示会 ・交通安全はゼロの日に啓発活動が行われることが多いが、それ以外の日においても実施日を検討。 ・人通りが少ない所にも防犯カメラや常夜灯の設置 ・各地域の班ごとに、防災訓練を行う。年1回の班長会議・年末の掃除等を行う。 ・何かあった際はかけこみやすい店作りを意識する。 ・避難所までのウォークラリーを開催されたのはとてもよいと思う。要支援者の登録において協力者を得ることが難しく、登録に至らない人がいる。 ・防災に関する意識は高まっています。例えば、自然の中にある竹や木、つるなどで生活の一部を支えることができるという知恵を学ぶ場があると良いと感じます。先人の知恵を未来ある子どもたちや青年に伝えていく取り組みがほしいと思います。
民生・児童委員	35件	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの不法投棄がある。よその町内の方が捨てていかれる。シールを貼られた後はどうするの。 ・災害が起きた時の避難所の見直しが必要だと思う。 ・どのような行動をすることの周知が足りないと思う。 ・災害時、個別支援計画により、どのように支援するか。その訓練をどのように行うか。（ALSの方、車椅子の方、いろいろな障がい者がいる） ・全てにおける問題点を解消するための具体的な方策を提案してください。 ・各町内会を中心に、各町内の実情に合った防災訓練等を実施する。 ・防災は各人の具体的な状況が把握できるようなハザードマップ。1戸1戸が対応するようなものができれば良い。 ・南海トラフ地震臨時情報が出た時、お店から防災グッズ（水など）がなくなり、大変だったので、防災グッズ購入の補助金を出してもらおうとある程度の人がある程度確認するだけになるといいです。全世帯だと大変なので、65歳以上の世帯だけとか。

共通アンケート調査結果【Ⅳ 地域での安心（防災・防犯・交通安全等）】

事業所	件数	要望・提案
		<ul style="list-style-type: none"> ・関わってくださる方と全く関わっていない方の差は大きいですが、一人一人関心を持っていただけるように活動し続けることが大切。 ・登録されている会員の生活しか対象にしていない。 ・防災訓練、交通安全教室、避難行動要支援者の把握 ・防災訓練と避難場所・避難ルートの周知 ・防災・防犯（詐欺が多発）、交通安全、避難行動の意識、知識指導が大事だと思います。 ・自主防災訓練の参加率の向上、避難所運営の役割分担 ・自主的な防犯パトロールや防犯灯の増設 ・警察との連携も必要か。 ・街中の空き家・放棄地の雑木・雑草対策、このような所は年々増えている。市としての対応はされていると思うが、街中での火災は近隣住民にとっては大きな不安となっている。 ・予算があるでしょうが、舗装されていない道や薄くなっている停止線等、毎日の生活に支障をきたすところの見直しとか、町単位で改善した方がよいところのアンケートをすればよいのではと思います。 ・ハザードマップの見直し ・町内会で勉強会、訓練を義務化し、災害に備える意識を住民全員に持たせることも必要。（当町内では現在はその年の担当役員が防災訓練に参加するのみで、町内住民に周知することがないため） ・独居高齢者、障がい者等の避難行動支援者を把握し、町内の支援者にも役割を自覚させる。 ・地域の安心・安全を考えると、この地区は多国籍の方々が増えています。顔の見える安心はありませんので、夜間明るい町を作ってほしい。街灯を多くしてあいさつのできる町を望みます。 ・緊縛強盗が多発したニュースが増し、とても不安な高齢者が多いと思います。地域・警察等の防犯教室、各家の点検等あれば良いと思います。 ・町内会単位で開催とかも必要かも。 ・町内会を利用して対応してもらうのがベター。 ・防災訓練を皆が参加できる方策が必要。町内会長等だけでは不十分。参加することによって防災意識が高まり、水や食料の備蓄の必要性も認識するようになるだろう。 ・地域でのふれあいがいないため、町内の人か分からない。 ・津島市防災ハザードマップの定期的な周知と地域住民とのまち

共通アンケート調査結果【IV 地域での安心（防災・防犯・交通安全等）】

事業所	件数	要望・提案
		<p>歩き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生すれば全ての人が被災者であり、皆で力を合わせなければならない。施しを受けるばかりではないんだとの意識改革が必要。 ・高齢者で元気で時間に余裕がある人や自宅にいる人は子どもたちの登校・下校時間に家の外や横断歩道、危ないと思う場所に立って子どもを見守ることができたら、子ども事故も防げると思う。 ・すべての町内に防犯カメラがあってもいいのではないか。 ・日光川水系の役割の重要性の周知が大切。西枝区で言えば又吉配水機場の増強から、新堀川領内川、そして日光川へと、さらに日光川排水機場の強化がもたらす恩恵の理解が大切。この長年の努力の成果を知らずに水害の問題点をあげるのは、片手おちのように思う。地震についても、この地域の特性を理解することが大切。尾張西部の傾動地塊の働きと意思のほかの安定性。こうしたことへの理解も大切と思う。もちろん根尾谷断層などの影響もあるが、周知活動などにより、住民がこれらの理解のうえに至って、防災力、対応力の維持や強化をしていくことは大切だと思う。 ・防災訓練（要支援者をふくめて） ・例えば、防災訓練や〇〇教室開催のお知らせはあるけれど、報告はあまりない。当日の学びやエピソードなどが親しみやすく書かれた報告も“必要に応じて”あるといいかなと思います。「へえ～面白そう～この次は行ってみようかなあ～」となるかも。 ・個別避難計画に関する基礎知識の習得
障がい福祉事業者	1 2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での避難訓練（やってるかもしれないが）。土日に行うとどうしても平日の昼間に起きたらという想定が難しい。 ・広報誌による周知。公共交通機関や喫茶店に置かせてもらう。 ・特に自然災害においては、その場のとっさの判断が大切。BCP含め、事前準備をしても自然を相手に自身の安全を守ることは非常に難しい。ドキュメント作成や設備の整備よりも、判断力を養う教育が必要。 ・不用品回収等のTEL、時間が増えているようです。同時に個人情報も流出しかねません。地域で安心に暮らせるように、ご家族にもご協力をお願いしたいですが、別居の方も多く難しいのが現実です。 ・津波発生時の垂直避難先をたくさん増やしてほしい。 ・地域での防犯・防災訓練の実施、防犯・防災セミナーやワークシ

共通アンケート調査結果【Ⅳ 地域での安心（防災・防犯・交通安全等）】

事業所	件数	要望・提案
		<p>ヨップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ起きるか分からない。いつ起きても安全・安心でいられるよう訓練の場や機会を作っていく。 ・地域で連携した訓練など。 ・街にはカメラの設置などをして、防犯対策をしていく。 ・地域の方と連携し、要支援者の把握や地域の課題も共有しながら協力し合える場を提供してもらいたい。昨年、コミュニティセンターに伺った際に、営利企業と協力できないと非協力的でした。 ・災害時に自分で判断して行動することができない障がい者の方もいるため、日頃から地域の民生委員や近隣住民と顔の見える関係を構築していき、何かあった際は協力し合える関係性を築いていく必要がある。災害時は障がい福祉サービスに頼ることができないことが想定されるため。 ・防災訓練を行う際の安全な避難経路の確保、避難行動を行う際迅速な情報提供、地域の住人の協力が必要。

(2) これからの津島市の地域福祉の推進にむけて

事業所	件数	要望・提案
幼稚園・保育所・認定こども園	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児健診をしてほしいという意見があります。 ・ こども園の側なのに頻繁に警察による取締り（一旦停止）が行われます。こどもたちが頻繁に鳴るサイレンの音に怯えることが多々あります。意見したこともありますが、信号をつけるなどの改善することがないのはどうかと思っております。天王川へつながらる道であり、こどもたちの通行も考えると、なにかしらの対策をしていただきたいと思います。 ・ 地域に多くの人々が交流できる場があつて、日頃より互いの顔を合わせていることが一番の支援対策となる。大きな公園や大きな施設を作ってほしい。 ・ 脱核家族の対策や補助をする。同居でも豊かな家族ライフを支援する。 ・ 町内全体での避難訓練（全員参加してもらえる仕組みづくり） ・ 住民だけでなく、近隣の企業やお店の人々も巻き込んだ防災訓練などを行う。 ・ 防災に関する講演会を保育園や小学校をはじめ、あらゆる所、あらゆる機会に実施する。 ・ 災害時などに必要な防災グッズを割安で販売する。 ・ 災害時に必ずつながる情報媒体の確立。
小・中学校	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化が進む中で、公的な福祉サービスは安心して暮らすために必要だと思いますが、予算や人員が劇的に増えるわけではないと思います。限られた資源で身の丈に合ったサービスの提供を行い、持続的な施策であることを期待しています。 ・ 高齢化社会に向けて、若い世代が働きやすい環境、住みやすい、住み心地のよい津島市づくり。 ・ 学校が地域福祉の推進に向けて関わっていくためには、地域学校協働本部を通して、協力できる活動内容を検討していくことが大切だと思う。
高齢者支援事業者	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民、サービス事業者、行政等、様々な活動主体が連携を取りやすいような仕組み作りが大切かと思う。 ・ 津島市の「ふれあいバス」について、停留所の場所を増やすと利便性が向上すると思います。また、近隣市町村にある病院などの公共施設へ行きたいという声を聞きます。「おでかけタクシー」も同様に近隣市町村にも行くことができるようになると出かける頻度も増えると考えます。

事業所	件数	要望・提案
民生・児童委員	24件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員になって2年弱ですが、担当している方々の役に立っているのが疑問の日々です。自分自身、行政（市役所）へ相談事をした経験がほぼないので提案することが浮かびません。他の地域の成功例が知りたいです。 ・ 曜日・時間に関係なく必要なヘルパー ・ 早朝、夜間、休日等の多様なニーズに対応できる取り組みを。 ・ 絵に描いた餅ではなく、実効性のある具体策を少しでも多く策定していきたいですね。ないもの、できないことを嘆いていても仕方ないので、目の前にある問題を確実に解決していく方法を考えていきたいものです。自分なりになぜ今こんなに地域活動（もちろん福祉に対しても）の共助の気持ちが薄れてしまったのか考えてみたのですが、一番の理由は将来に対しての不安がどなたも大きいからだと思います。だから皆さん自分のこと（家族）で精一杯じゃないですか。確かに個人主義が蔓延してきていることも事実だとは思いますが。 ・ コミュニティバスの相互乗り入れをやるべき。市町村単位の経路設定だけでなく、電車の駅、病院、スーパーマーケットなどを結んで少なくとも1時間に1本程度は必要。県道を中心に考えるとよい。建設途中の県・市道を早期に開通し、利便性を向上させる。そのためには、立ち退きが遅れるなどして部分的に狭いところがあってもやむを得ない。軽自動車が通行できれば早く供用開始すべきである。 ・ もっと民生委員等、一般地域住民が困りごと等の相談を通じ住民との交流を深めると良い。敷居は低く、気軽に話ができる体制が必要。 ・ 当たり前のことで申し訳ないですが、なかなか難しいことですね。全体的に思うことは、地域の理解、共生、安心等の根本は市民全ての方が住んで良かったと思うこと。高齢者・若者・学生・子どもそれぞれが楽しい町と思えるところはどんなところか、私たち一般人も考えるが、行政は行政で調査していると思うが、世間にはそういう住んで良かったと思う市や町があるが、どこに差があるのでしょうか。愛知県で一番住みやすい市として長久手市があるが。 ・ 全国的に災害時には社会福祉協議会がボランティアセンターを開設するが、津島市に限ったことかは分かりませんが、事業過多、人員不足を考えると非常に厳しい現実があるのではないかと心配しています。 ・ 地域の人々との繋がりは、簡単なことから。自宅の両隣の人と、

事業所	件数	要望・提案
		<p>例えば1週間に1回はあいさつをする(話をする必要はなく、おはようございます、こんばんは等)とあいさつカード等でポイントを貯めるとゴミ袋が1枚いただける等、小さなことから繋がりを広げたらいかがでしょう。徐々に周りの様子が分かり、困った人を知ったら公のところに連絡、ポイントゲット等、ゲーム感覚で人々がボランティアに参加できるようにしたら、楽しく皆が意識できるように思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進国や先進地の応用(津島バージョンへ発展)。防災等は具体的な実例として課題整理し、傾向と対策を津島バージョンとして考察。 ・やりすぎの福祉は意見交換が必要と思われます。地域福祉活動で良かった点を広める。良い活動を啓発する。福祉課の方にいつもお世話になりありがとうございます。 ・皆さんに私が話すとき笑うのですが、最近空き家等に動物(猫)等を集めて、地域で育てることをやれたらいいなと思います。天王川が近いので、よく猫を見かけます。事故に遭ったりして生命が絶たれ悲しくなります。人間と一緒に共存できる未来があると良いのですが?幼児から高齢者の方達に参加していただき皆で世話して生きがいができる命の大切さが子ども達に伝わりますように。 ・高齢化に伴い増加するであろうシニアカーがスーパー等で健常者に遠慮することなく買物ができる環境作りが必要になってくると思います。シニアカーでは店内に入れな思っている人、また、道路を遠慮しながら走行している人のお話を伺いました。外出の機会が増え、気分転換にもなる買物をして、楽しい時間を過ごす。健康作り、認知症予防にもつながるのではないのでしょうか。 ・少子化対策として、大学生に条件付き奨学金制度を設ける。条件とは、卒業後も津島市に住むこと。少々乱暴な条件ですが、“消滅自治体”にならないための私の思いつきを書かせてもらいました。 ・抽象的でよく分からない。 ・民生委員としてまず感じたことは、ひとり暮らしの方が抱えておられる不安事項として、年単位ではなく半年くらいで色々直面する、病気や生活不安という個々の状況があるなと思います。補っていけることもあるので、健康維持をしつつ、触れ合いの機会が増えていくと生き甲斐にもつながるのではないかと思います。1年以上前になると思いますが、市長さんが朝の小学校挨拶

事業所	件数	要望・提案
		<p>運動にみえた時、小学校から県道（宇佐美鉦油さんのある方）の道が、草木で見にくい。すると1ヶ月もないくらいで伐採され、見通しよくなり安全面でありがたく思ったものです。このような近隣の人がわかる危険箇所を周知するためにも、できるところからの改善をお願いしたいです。できること、できないことがあるのは承知の上でのお願いで、埋田町の押しボタン式信号を2つの企業のところと連動させていただけるとうれしいです。押しボタンを押すとイやな顔をされ、通ったあとまだ赤なのに出発する運転手もあります。小学校のためだけでなく、住民のためにもぜひお願いしたいひとつの案件です。よく通る時間帯で横切る姿をよく見ます。薬局のところで昔死亡もあったはずで。ちょっと銀行～某飲食店あたりは距離があると思います。昼間の交通量は少ない時間帯もありますが、よく渋滞します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔のような近所づきあいは、個人情報を守る今の時代では無理だと思われます。隣近所に住んでいる人の様子もサッパリわからない。よほど仲良くなしないと家族構成も知らないままです。昼間も留守の家も多く、コミュニケーションをとるのが難しい方が多いと思われます。どうすれば良いのでしょうか。 ・地域福祉の理念を私もですが、市民のみなさんは理解しているのでしょうか。「助け合い支え合う」と言うのは簡単ですが、そのためにはお互いの関係性がないと難しいと思います。どんなイベントにしても毎回同じような人が参加者で、なかなか新しい方は見かけない。全国的にというのか、世代的にというのか、みんなが同じ目的のために集うというのは、生き方が多様になっているので難しいと思います。 ・ゴミ出しについて。青袋の内容の間違が多いよう。燃えるゴミにビニール、プラスチックを入れないように注意しているのに残念。青袋はきれいなビニール、バケツ等大きなプラスチックは燃えるゴミと指導した方がいい。燃えるゴミにプラスチックは入れないようにとの注意のみ目立つ。 ・定住推進補助金について。対象区域以外でも、津島で育った若者が戻ってきた時にも補助金があると、親世帯の近く、津島に住居を取得するきっかけになるのでは。近くといって蟹江や弥富に住むのは残念だ。 ・地域福祉を考える方々が笑顔でいなければならないと思います。 ・高齢者は自分から一歩前に出るとは難しいです。訪問により心を開ける会話を望まれます。時に拒む方もみえますが。 ・相談先が増えることは悪いことではない一方で、まずは「市役

事業所	件数	要望・提案
		<p>所」に相談→専門のところへ紹介という形は弱者にとって一番分かりやすいと感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心となる組織・事業所を1つ設ける。例えば、地区のコミュニティセンターなど。人材不足なら雇用を図る。いくつもあっても、どこで何をしているのか住民の皆さんは把握していないと思う。まずは、市職員らが現状把握に出向く所から始められたらどうか。他人に任せない行政で、良い津島の福祉作りを期待します。 ・少子高齢化は当然のこととして受け入れざるを得ない。高齢者は確実に増加しているが、本当に元気な高齢者も多い。このパワーをいかに生かすかが重要。こども達の通学の補助だったり、例えば学校地域の清掃活動に参加してもらうように、社会に引っぱり出す方策を考えるべき。また、なり手のいない民生委員の対策として、年齢制限をなくし、高齢者にもやってもらうような施策を国にも働きかけるべきだと思う。 ・津島市民が住みやすい市にしてほしい。津島市に移住したいと思える人を増やすには、日頃の生活が安心で、またこどもを育てやすく、税金、こども、高齢者への厚い支援が必要だと思う。車の危険な場所には、ぜひ信号機をつけてこども、高齢者の命を守ってください。 ・どこに行くにも交通手段がない。75歳以上を対象にお出かけタクシーを活用できることは一歩前進ですが、範囲が限られたり、すごく待ち時間が長かったりと利用しづらいのが現状です。また市内巡回バスは本数が少なく利用しづらい。もっと小型で少人数でも利用しやすい方法を考えるべきでは。 ・広報などによる周知活動は関心のある人が主に読むので（細かい文字は年齢がいった人にはよみにくい）、その他の方法にチャレンジすることも必要と思う。（例 イラストの多いポスターやパンフレット、地域福祉サービスを受けた人や提供している人の実践記録、市の出前講座、ボランティアポイント制など）工夫が必要。この前、社会福祉協議会からその活動を説明するのに絵やイラスト入りのパンフレットが出された。地域のシルバー年配者の人が見入っている姿を見ました。この夏、寿町から又吉町にかけての幹線道路が整備され植樹がされた。しかし夏の暑さでせっかくの植樹が枯れてしまった。（たぶん半数以上）近くの町内の方が気をきかせて自主的に水をやれば枯れずにすんだかもしれない。折角お金をかけたのに残念なことだ。このようになんでもかんでも行政に頼ればよいという気風は、地域福祉の充

事業所	件数	要望・提案
		<p>実にとって問題ではないかと最近思っている。住民自治の気持ちが欠如し、社会の非協力化につながるのではと思う。行政の側は住民の要望や期待にこたえようと日々懸命に働いていることは承知の上であるが、“市に頼めばいい”という気持ちから“自分たちでやれることはやってみよう”（少子高齢化などでシルバーパワーを生かすことはとても大切になる。）という方向に住民の意識が向いていくように、つまるところ住民による地域福祉の充実につながるようになるとよいと思う。</p>
障がい福祉事業者	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、この周辺との地域福祉の格差に気づいてください。地域によって充てられる予算が違うのは承知しています。同額充てているのに差がある状態でしたら、まずはその差に充ててほしい。 ・街全体、とにかく歩道が狭い。車を運転しないこども・高齢者・障がい者にとって非常に危険である。住民は整備された駅周辺にだけ住んでいるわけではない。車椅子での通行、弱視者の歩行、自転車通行が困難な道路が目立つ。 ・津島市に住んでいることもあり、以前よりもずっと福祉に対して向上していると感じることがあります。相談、共有、連携できる場を今後も増やしていき、利用者様が安心・安全に生活していけると良いと思います。 ・地域福祉は、高齢、障がい、その他様々な事情から福祉サービスが必要となっても、これまでつくりあげてきた家族、友人等との関係を保ち、社会や経済、文化などあらゆる分野の活動に参加できることで、誰もが自分らしく、誇りをもって、街の一員として自立した生活が送れるような「地域社会」をつくっていくことです。これが現実になることが望ましいが、そんなに簡単なことではない。 ・体が不自由な高齢者になりたくない、障がい者は嫌だ。そんな風に思っている人が、地域社会の中で生きていくのは難しい。当事者本人の考え、心持が重要になってくる。障がい者は恥ずかしいことではない、困ったときに助けてと言えることが自立だと伝えていく。そのSOSを出せない高齢者、障がい者が増えていくことも考えられる。関与したい人は少ないのが現実。こういった、当事者に寄り添い話を聞く支援者の育成に税金をかけていたらと思います。 ・街全体で人が集う空間やイベント等が昔に比べ勢いがなく、活気がないと思ってしまいます。地域福祉も一人一人にゆとりのない生活状態では充実することは現状難しいのではと考えてし

共通アンケート調査結果【要望・提案】

事業所	件数	要望・提案
		<p>まいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津島市の福祉を良くしていけるなら、いろいろな協力をしていきたいです。現状、津島市障がい者総合支援協議会 就労支援部会でお役に立てればと取り組んでいます。スピード感も大事だと感じますが、1つずつ丁寧にこなしていけるよう私達も取り組んでいきますが、なかなか進んでいかない苛立ちもあります。行政が先頭に立ってもらい確実に前に進んでもらえるようお願いしたいです。お手伝いできることはこれからもさせていただきます。 ・地域福祉の推進にあたり、地域生活支援の福祉施設の整備等財政措置の充実をしてほしい。障がい者が安心して生活することができる地域作りをみんなで力を合わせて行ってほしい。

